

令和6年度

住民アンケート 結果



柿崎まちづくり振興会

01

アンケート概要

▼ アンケートの目的

当振興会の活動目標は、「住民に身近な住民サービス事業の推進」「住民の意向を地域に反映させる事業の実施」「住民や地域の諸団体と行政が協働する地域づくり事業の推進」を通じて、豊かな地域社会の形成に貢献することである。

本目標の達成に向け、当振興会では今後の「活動の指針」および「財政基盤の確立対策」を策定し、公表することとした。

また、策定の参考とするため、柿崎区全世帯および中学生を対象とした「住民アンケート」を実施する。これは、地域住民の意向を把握し、事業計画の策定に反映させることを目的とする。

▼ アンケートについて

◆中学生向けアンケート

方法	: Webアンケート
対象者数	: 191名
回答者数	: 83名
回答率	: 43.5%

◆世帯向けアンケート

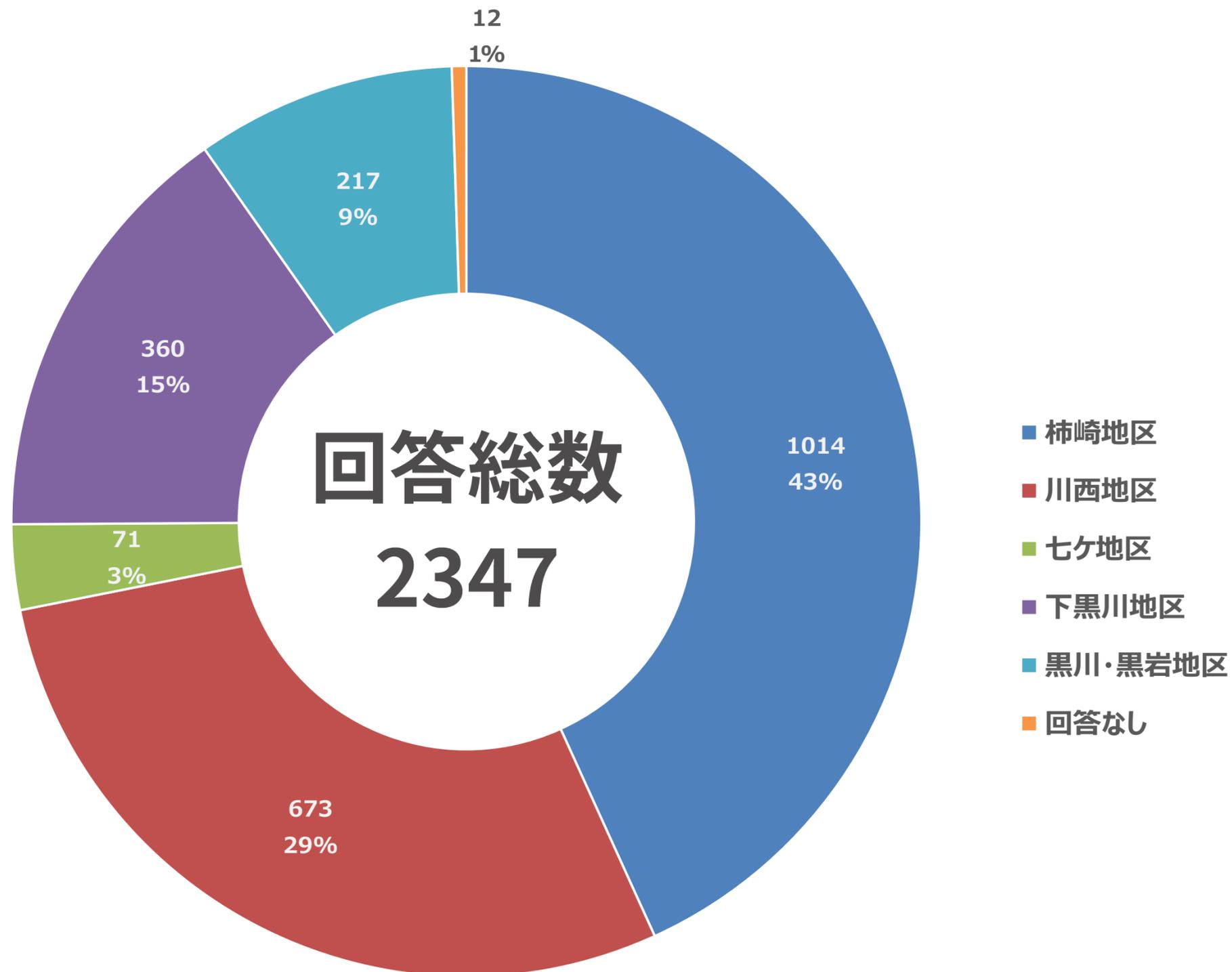
方法	: 全世帯向けに設問・回答用紙配布、およびWebアンケート
配布世帯数	: 3,253
紙回答数	: 2,153
Web回答数	: 217
回答数合計	: 2,370
回答率	: 72.8%

02

世帯向けアンケート 結果



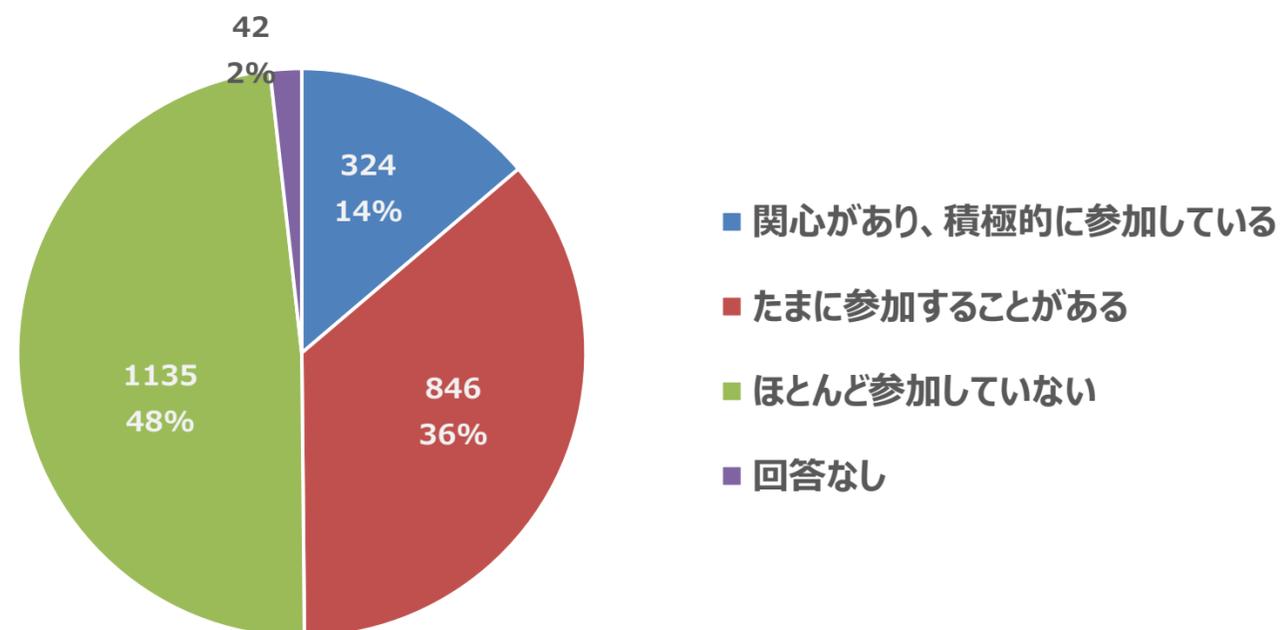
▼ 地区別回答数



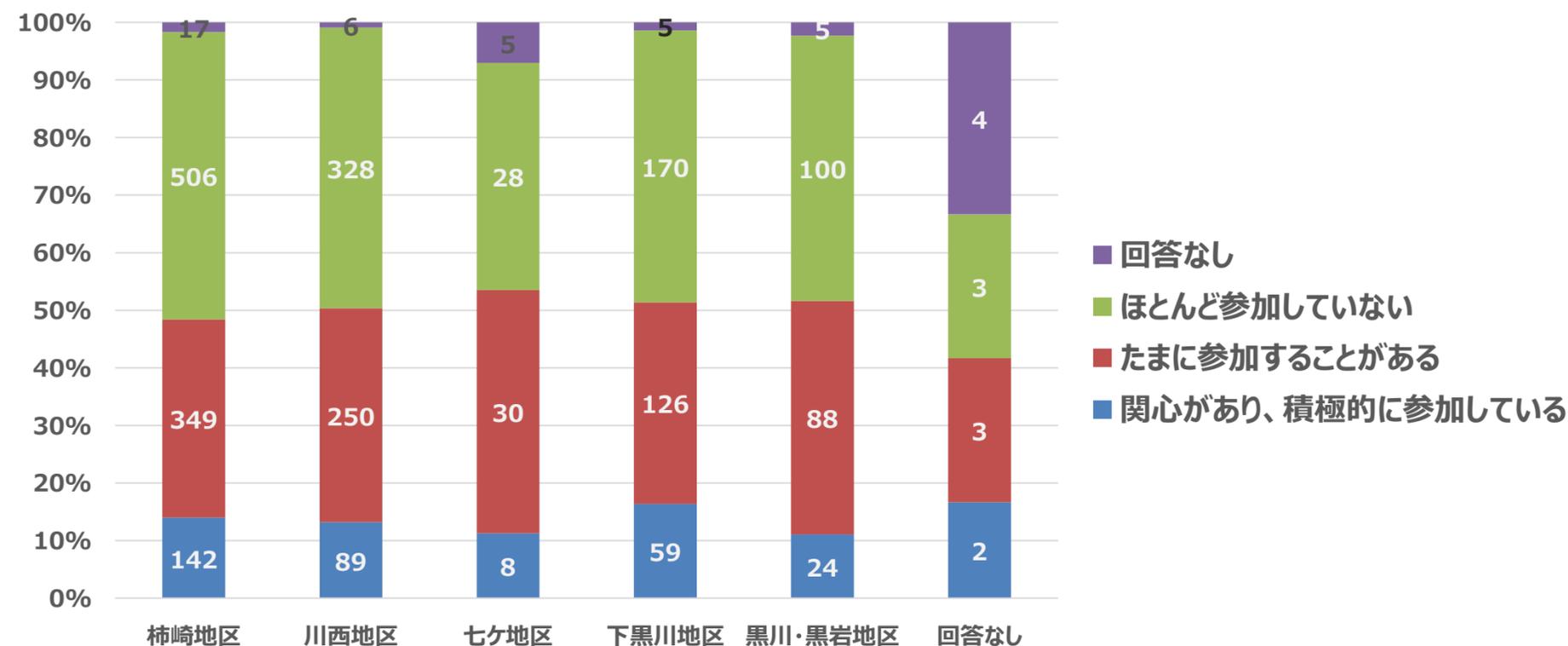


地域活動への関心

全体



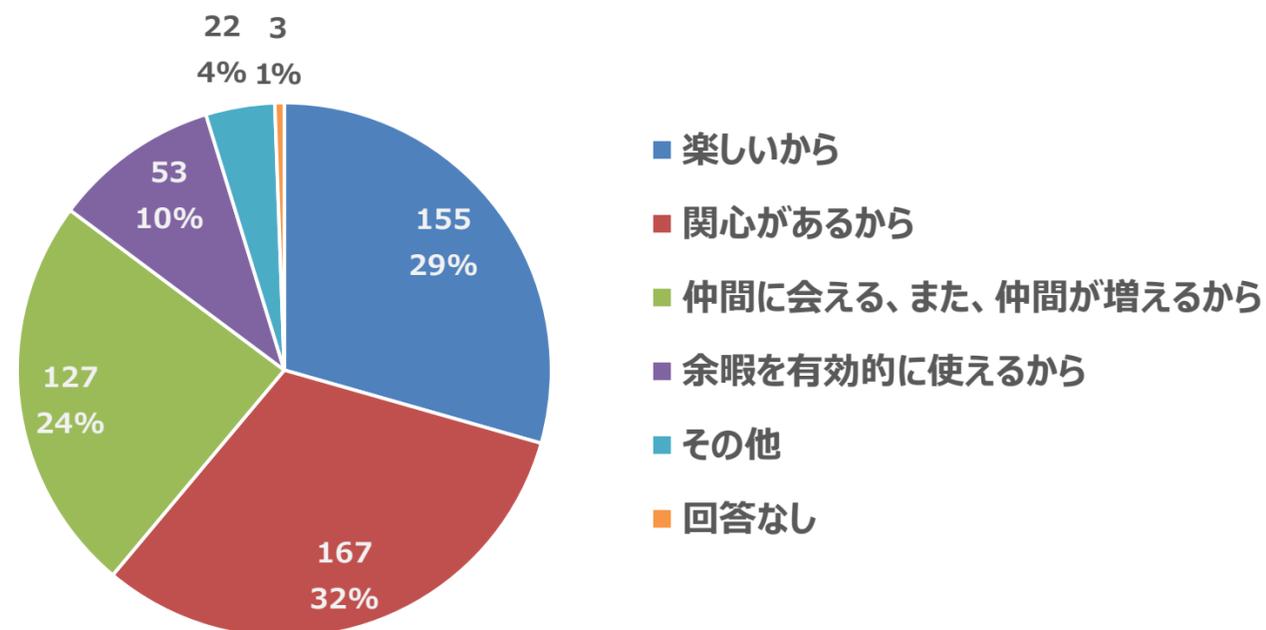
地区別



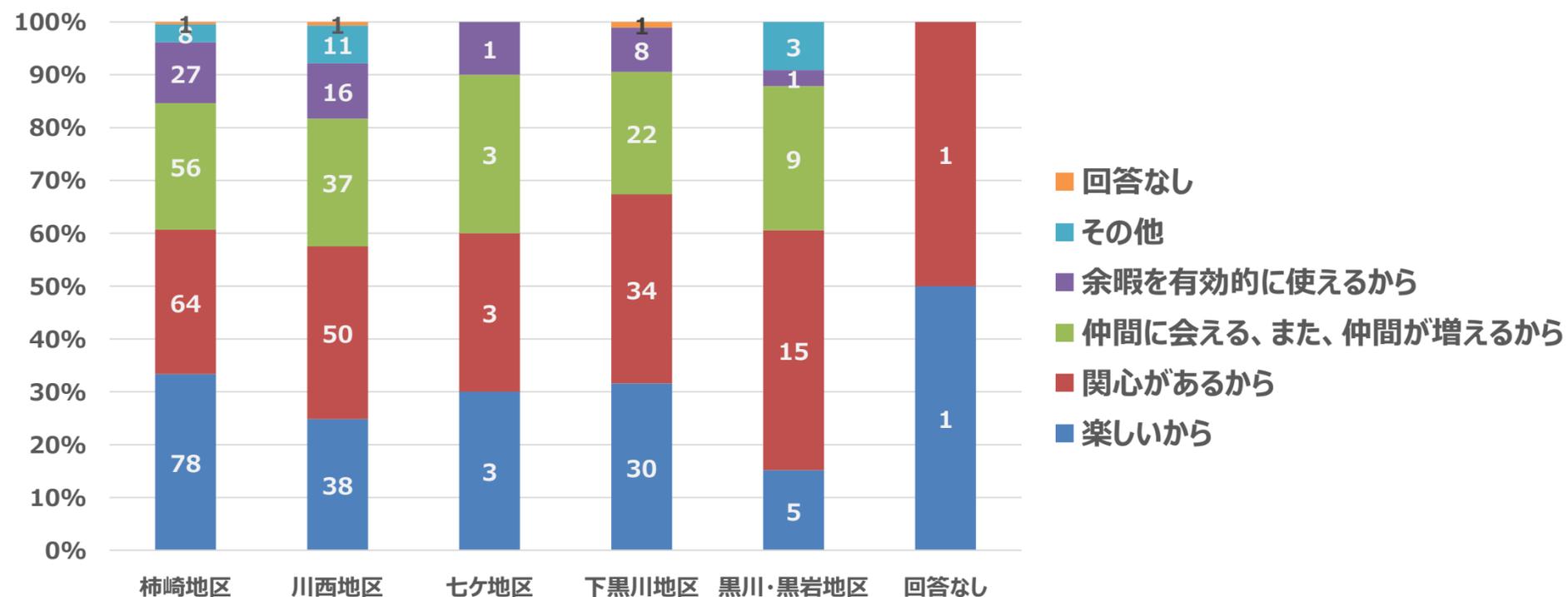


「関心があり、積極的に参加している」理由

全体



地区別





▼ 「関心があり、積極的に参加している」自由意見

1. 地域の発展・活性化への貢献

- 人口減少の中、地域の発展や活性化を目指したい。
- 地域の魅力を感じてもらい、住みやすい環境を作りたい。
- 楽しい企画や活動で住民を巻き込みたい。

2. 役割や義務感による参加

- 町内協議員やまちづくり振興会の役員としての責務。
- 町内会活動への義務感や立場上の役割。

3. 住民間の協力・繋がり

- 困ったときに助け合える環境づくり(SOSの場としての町内会)。
- 田舎では協働作業が必要。

4. 自身や家族のため

- 子供の成長を喜び、子どもたちに地域の良さを感じてほしい。
- 自分自身の健康維持や利益のため。

5. 交通や生活の利便性のため

- 公共交通(はなますバス)の利用や地域の利便性向上を期待。

6. その他の理由

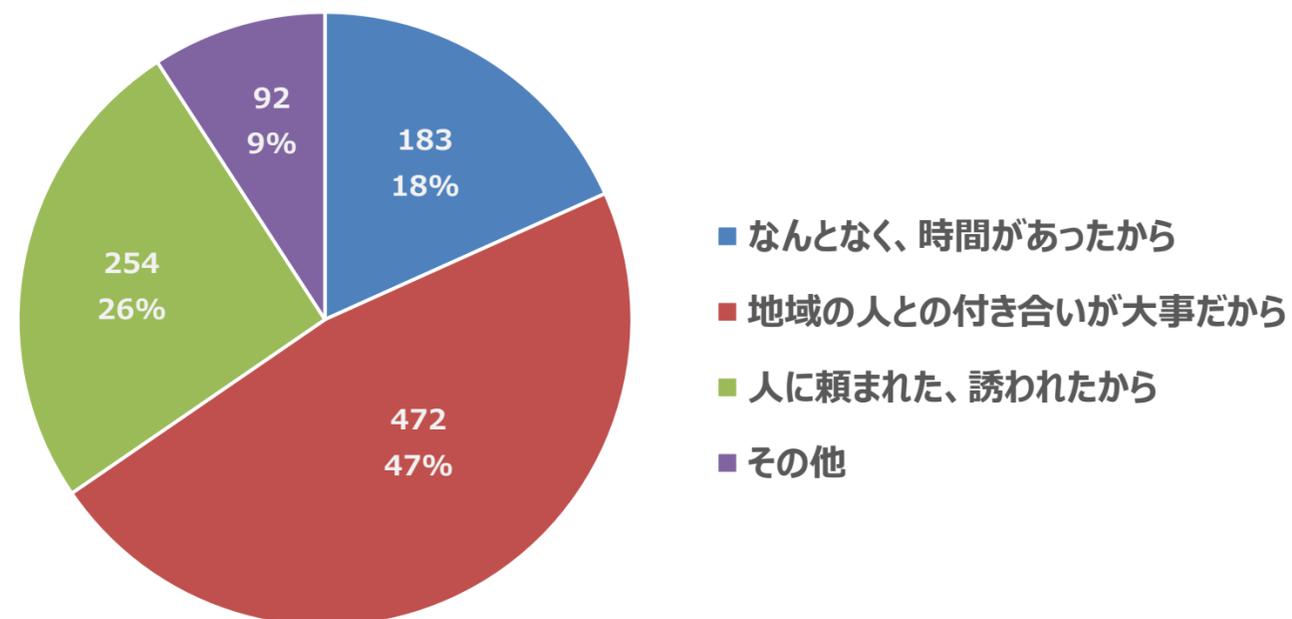
- 地域に貢献してきた人々への感謝や恩返しの気持ち。
- 高齢者にやさしい地域づくりを期待。

このように、地域の発展や住民同士の繋がりを重視する姿勢が強く感じられます。

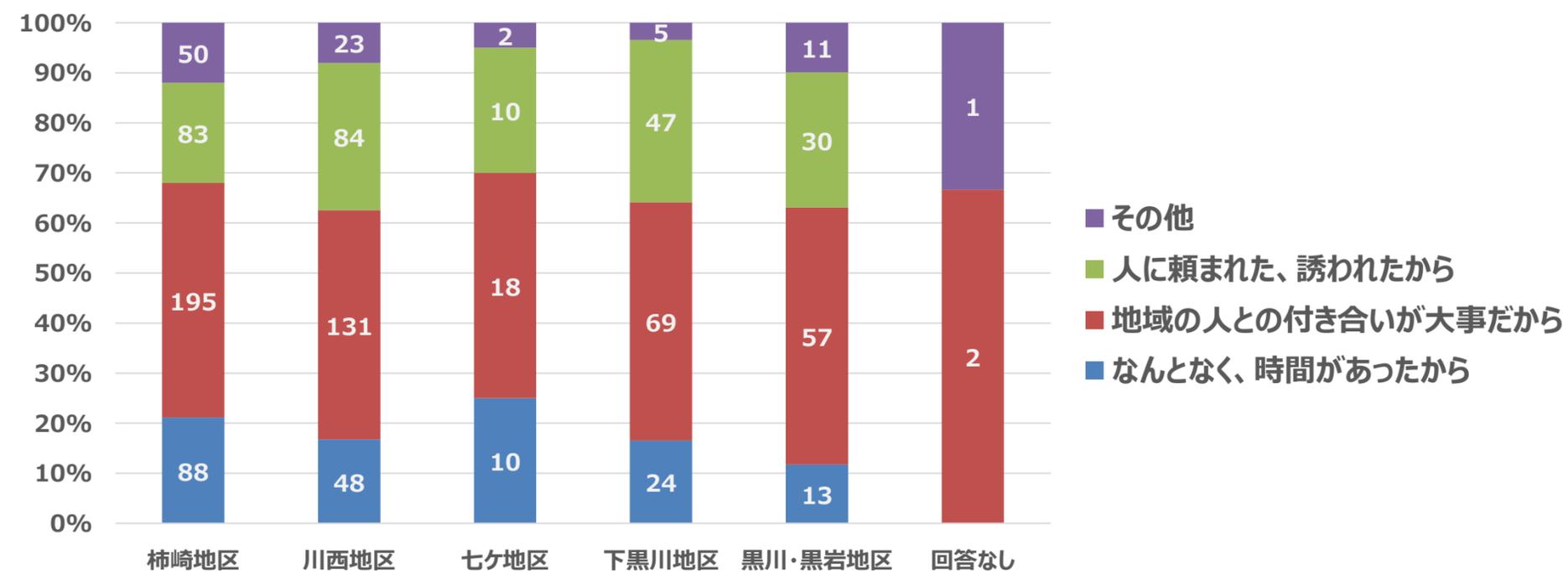


▼ 「たまに参加することがある」理由

全体



地区別





▼ 「たまに参加している」自由意見

1. 参加の理由・動機

- 関心や興味による参加

- 楽しそう、興味がある内容のイベントや活動に参加したい。
- 知り合いに会える、地域の人との交流が楽しい。
- 計画者の努力に報いるために参加したい。

- 役割や義務感

- 町内会役員や係などの立場上、必要に応じて参加する。
- 集落や町内の行事に義務感で参加。

2. 参加の頻度や条件

- 条件が整えば参加

- 仕事の都合、休日のタイミングが合えば参加する。
- 体調や年齢により、参加できる範囲が限られる。
- 交通手段がない、会場が遠いなどの物理的制約がある。

- 活動内容による参加

- 興味があるテーマや内容のときのみ参加。
- 清掃活動など、必要と感じる活動に限定して参加。

3. 参加できない理由

- 時間や体力の制約

- 仕事が忙しく時間が取れない。
- 高齢や体力的に厳しい。

- 交通やアクセスの問題

- 会場が遠く、移動手段がない場合参加が難しい。

4. その他

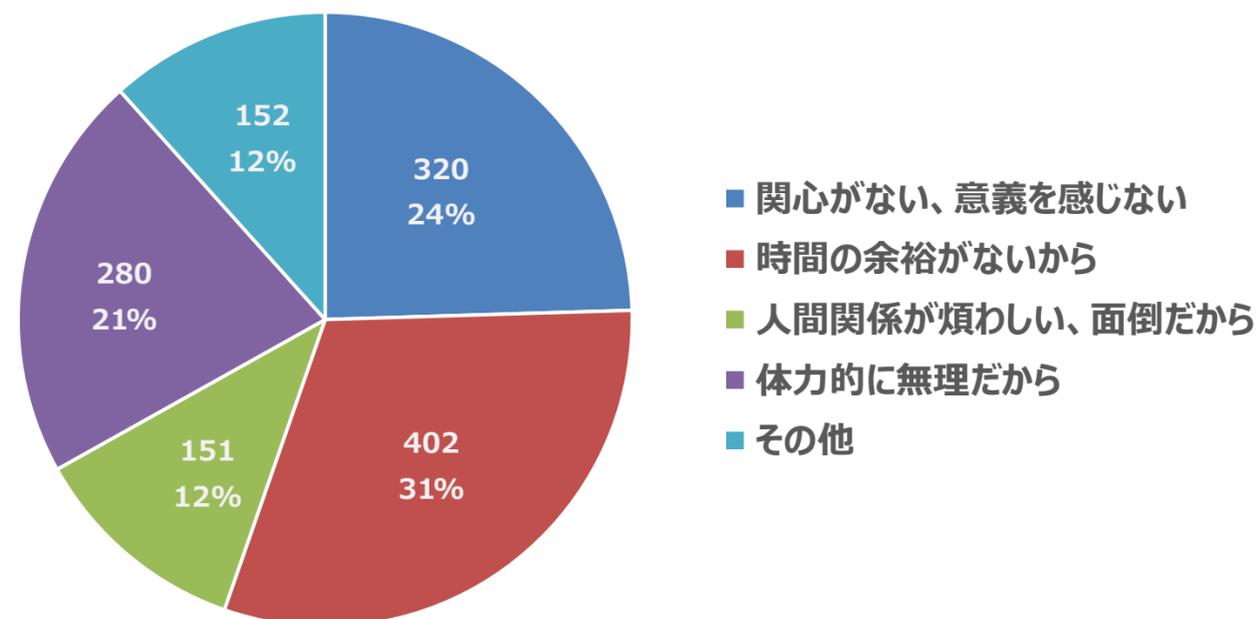
- 特定の行事(花火大会や祭りなど)には関心が高い。
- 柿崎区レベルのイベントより、身近な町内会や集落の行事を重視。

全体的に、「興味がある内容」や「参加条件が整う場合」に参加する姿勢が多く、仕事や体力的制約が理由で参加頻度が限られている傾向があります。また、役員や係の立場上の義務感による参加も一定数見られます。

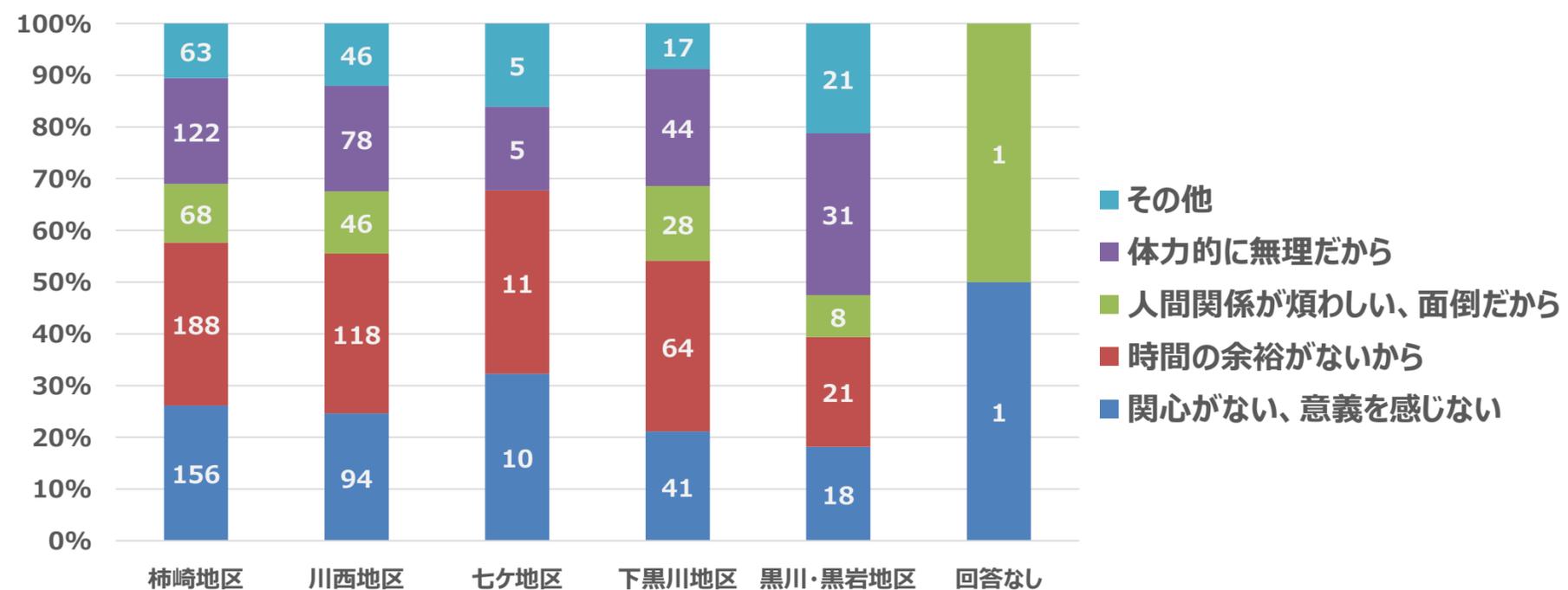


「ほとんど参加していない」理由

全体



地区別





▼ 「ほとんど参加していない」自由意見

1. 参加できない理由

- 高齢や体力的な問題
 - 高齢のため(80歳以上が多い)。
 - 足腰が不自由、歩行困難、体調不良など身体的制約。
 - 年齢や体力的に活動が難しい状況。
- 仕事や家庭の事情
 - 仕事が忙しく休みが不規則で日程が合わない。
 - 介護や家事など家庭の事情で余裕がない。
 - 経済的な理由で外出を控えている。
- 情報不足
 - 活動やイベントの開催情報を知らない、把握できていない。
 - 引っ越してきたばかりで地域の活動が分からない。
 - 参加の仕方や活動内容が分からない。

2. 参加しない理由

- 関心や魅力の欠如
 - 活動内容に興味や魅力を感じない。
 - 騒がしいのが嫌い、楽しめる内容ではない。
 - 地域活動が自分の年代に合わない。
- 心理的ハードル
 - 初めて参加するのに勇気がいる。
 - 地域に知り合いがいないため孤独感がある。
 - 人間関係を構築するのが面倒だと感じる。

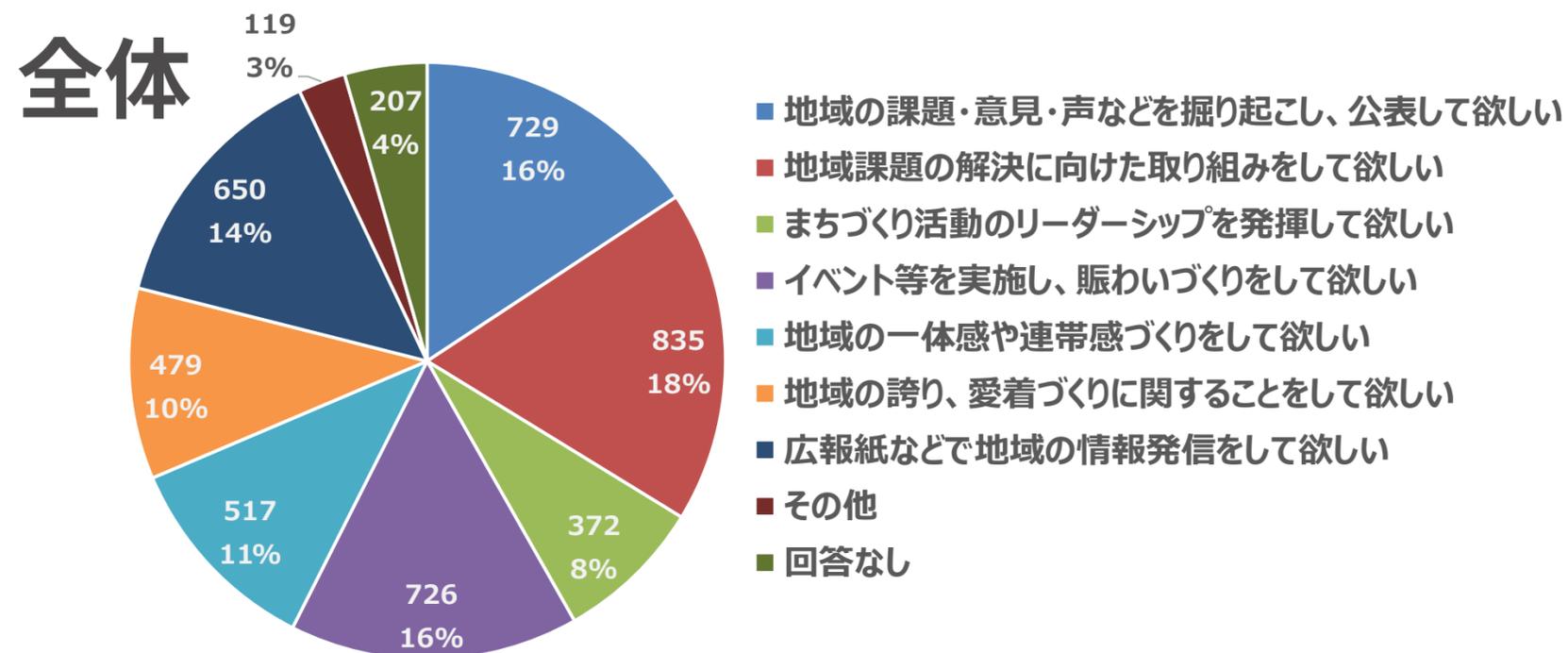
3. 参加への意見・要望

- 条件が整えば参加したい
 - 平日に開催されるイベントには参加したい。
 - 自分に合った活動内容があれば参加意欲がある。
- その他の意見
 - 地域活動の意義は理解しているが、参加できない状況にある。
 - 地域の活動内容や意図が分からないため、関心を持ちにくい。

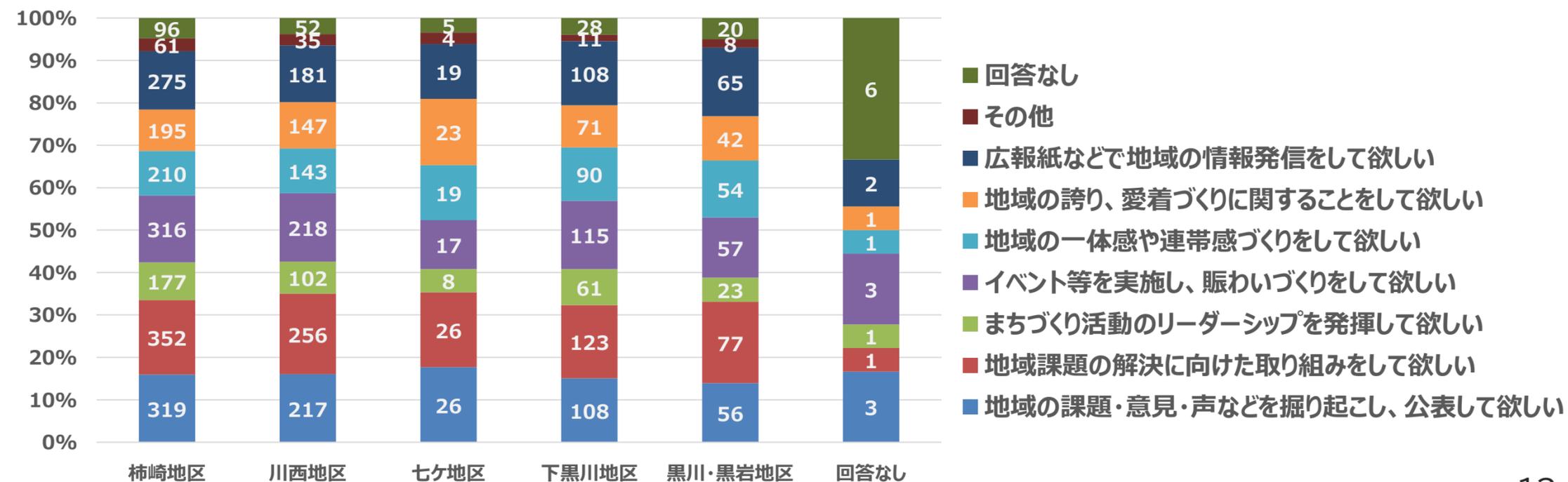
参加しない理由として、高齢や身体的な制約、仕事・家庭の事情、情報不足、活動への関心の欠如が挙げられています。一方で、条件や内容次第では参加したいとの意見もあり、活動内容の多様化や情報共有の工夫が求められています。



地域の団体に期待すること



地区別





▼ 地域の団体に期待すること 自由意見

1. 特に期待しない意見

- 「特にない」「期待していない」という意見が多数。
- 高齢や体力的な問題、興味・関心の欠如が主な理由。
- 活動や団体の必要性を感じていない、または詳細が分からない。

2. 地域活性化への期待

- 人口減少対策
 - 過疎化の防止と若い世代を呼び込む施策(移住促進、企業誘致)。
- 地域の魅力発信
 - イベントや活動を通じて柿崎区の魅力を広く発信(YouTubeやポータルサイトの活用)。
 - 名物や特産品の開発、地域収益につながる取り組みの推進。

3. 地域の住みやすさの向上

- 交通やインフラ改善
 - 交通機関の整備や不便を補う事業展開。
- 安全・安心の街づくり
 - 防災訓練や防災関連の取り組みを期待。
- 施設の整備
 - 子供が楽しめる公園や施設の整備を希望。

4. 団体の活動への要望

- 住民全体が参加しやすい活動を目指す(一定の人に偏らない運営)。
- 活動内容や必要性を周知し、住民が身近に感じられる工夫(広報の改善)。
- 若い世代の意見を積極的に取り入れる。

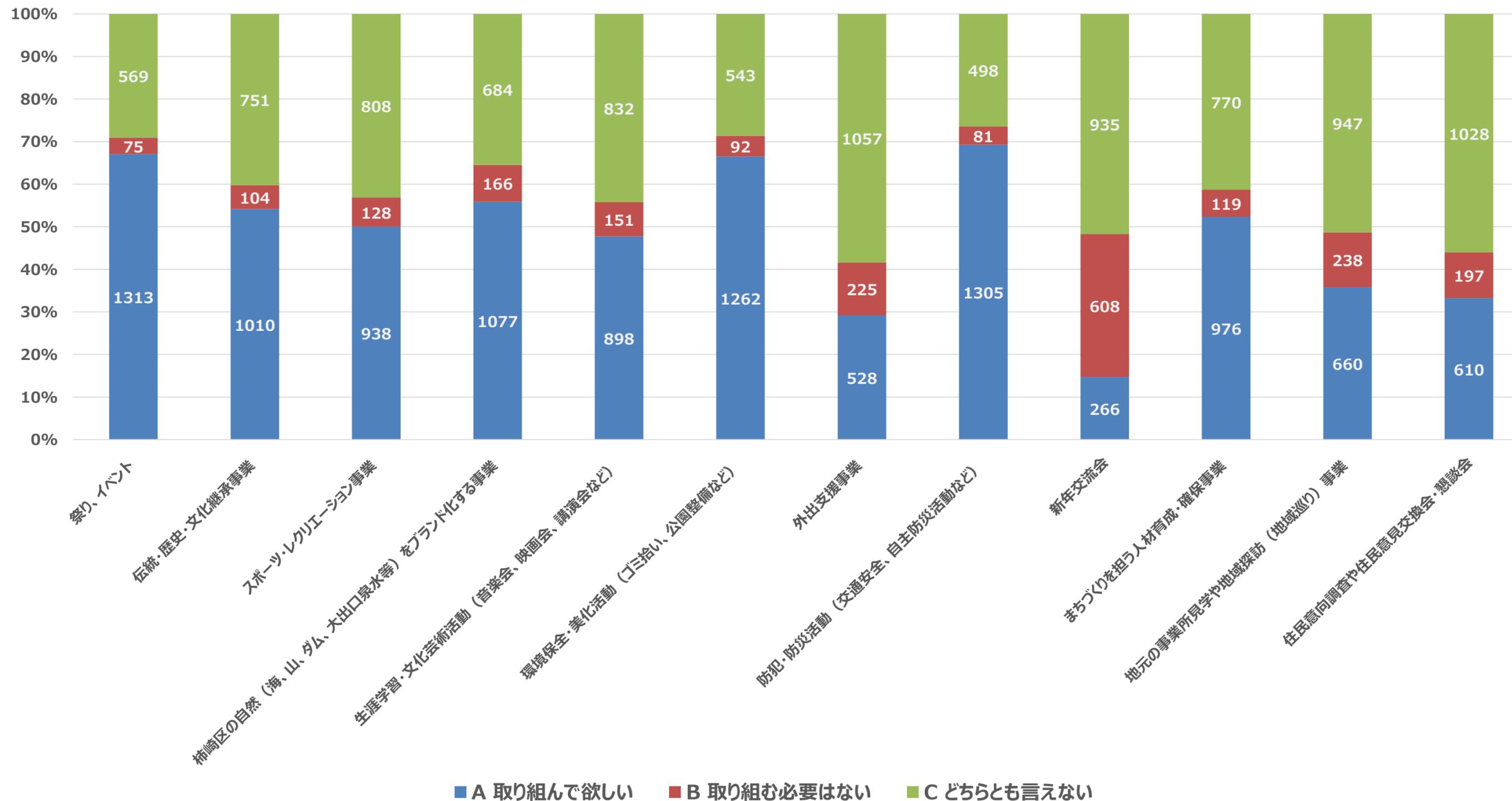
5. その他の具体的要望

- 行事やイベントの多様化(娯楽の場や地域間交流の場を提供)。
- 地域の課題解決に向けた取り組み(行政代替の役割も期待)。
- 団体の無理のない活動を希望(役員や事務局の負担軽減)。

期待する意見と期待しない意見が分かれる中で、「地域の魅力発信」「若い世代の意見反映」「住みやすい環境づくり」「交通・インフラの整備」といった具体的な要望が見られます。一方で、団体の活動や意義を分かりやすく伝えることも課題として挙げられています。

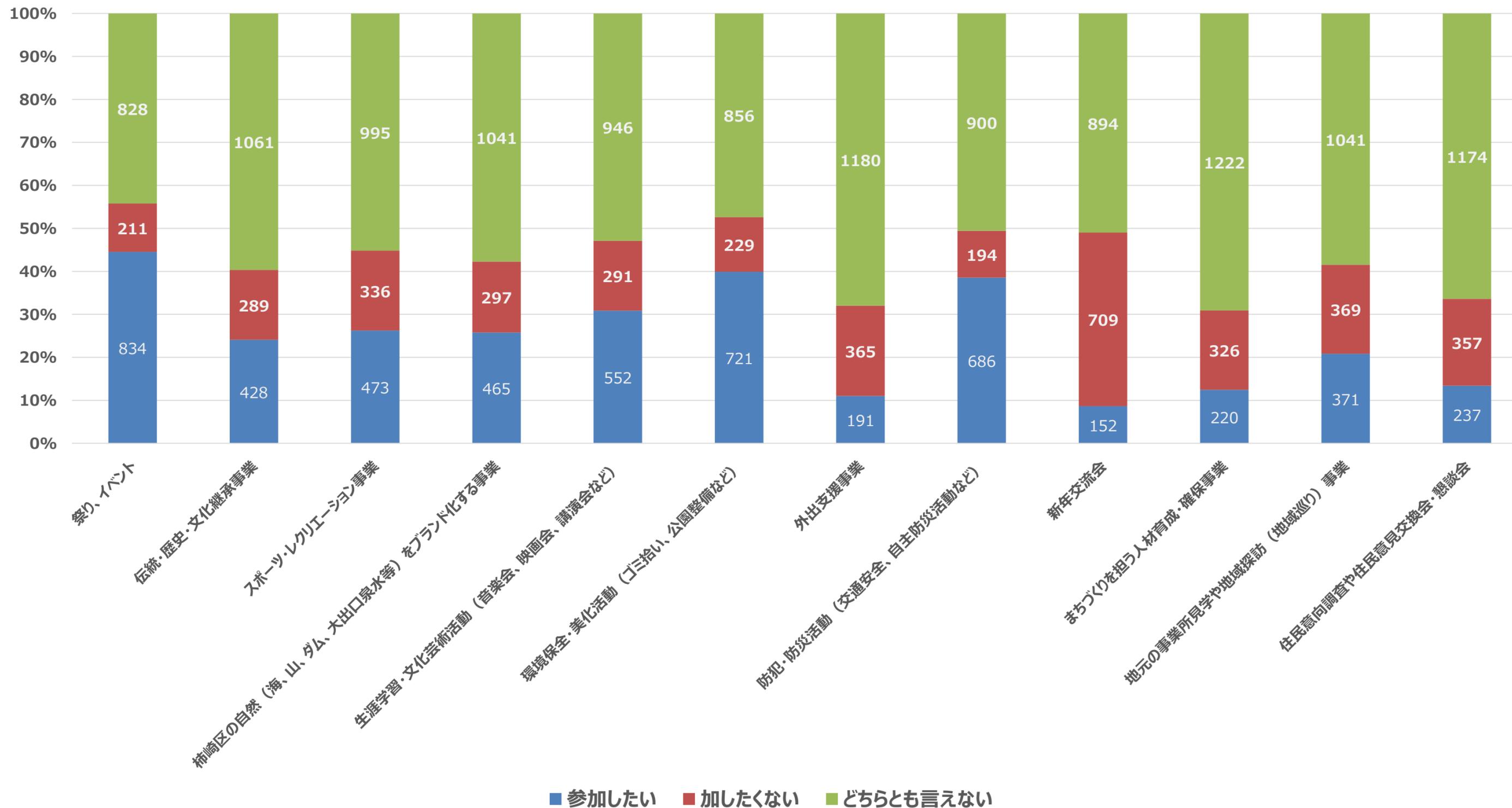


地域団体の事業 取り組んでほしいか



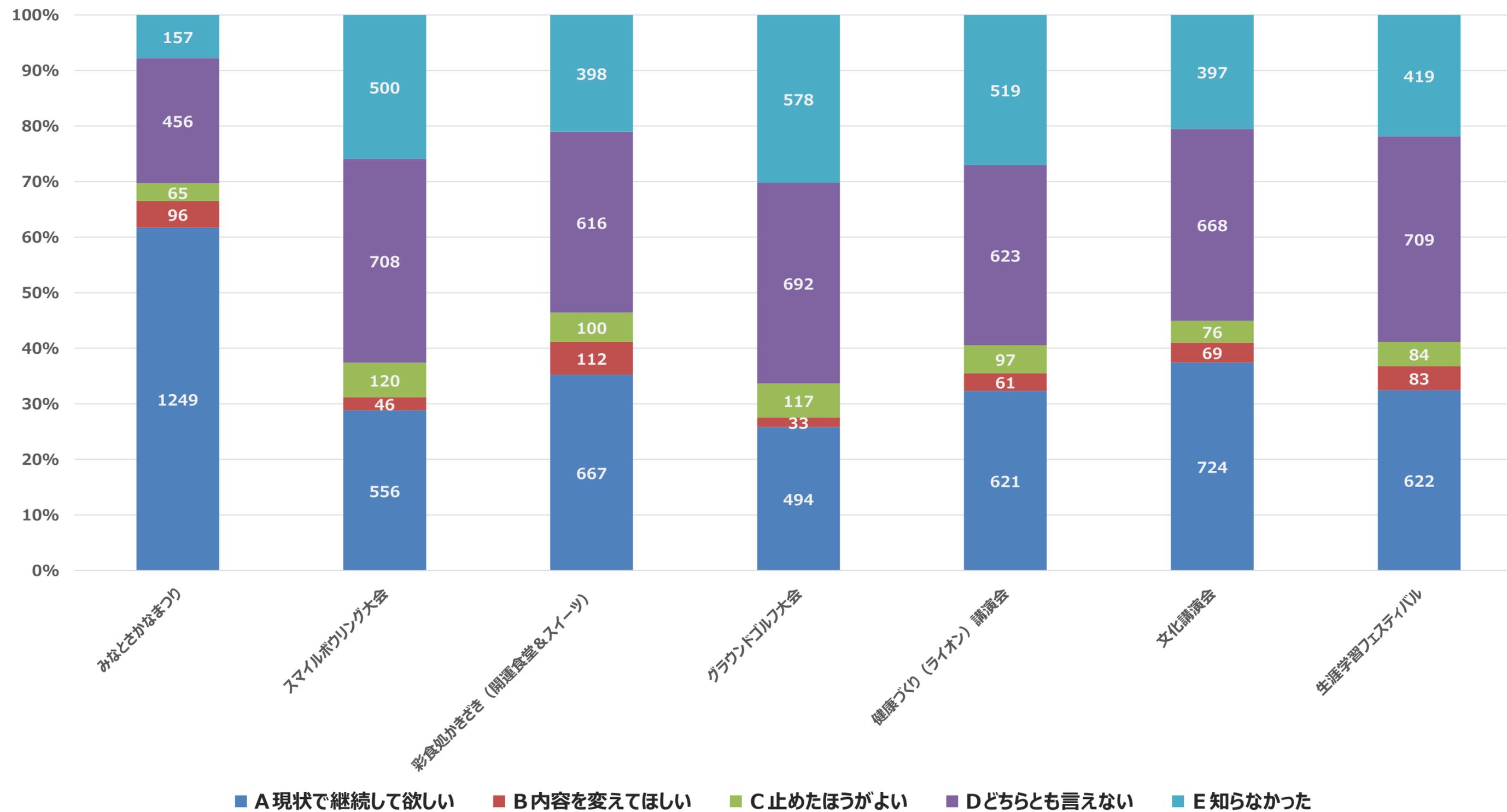


地域団体の事業 参加したいか



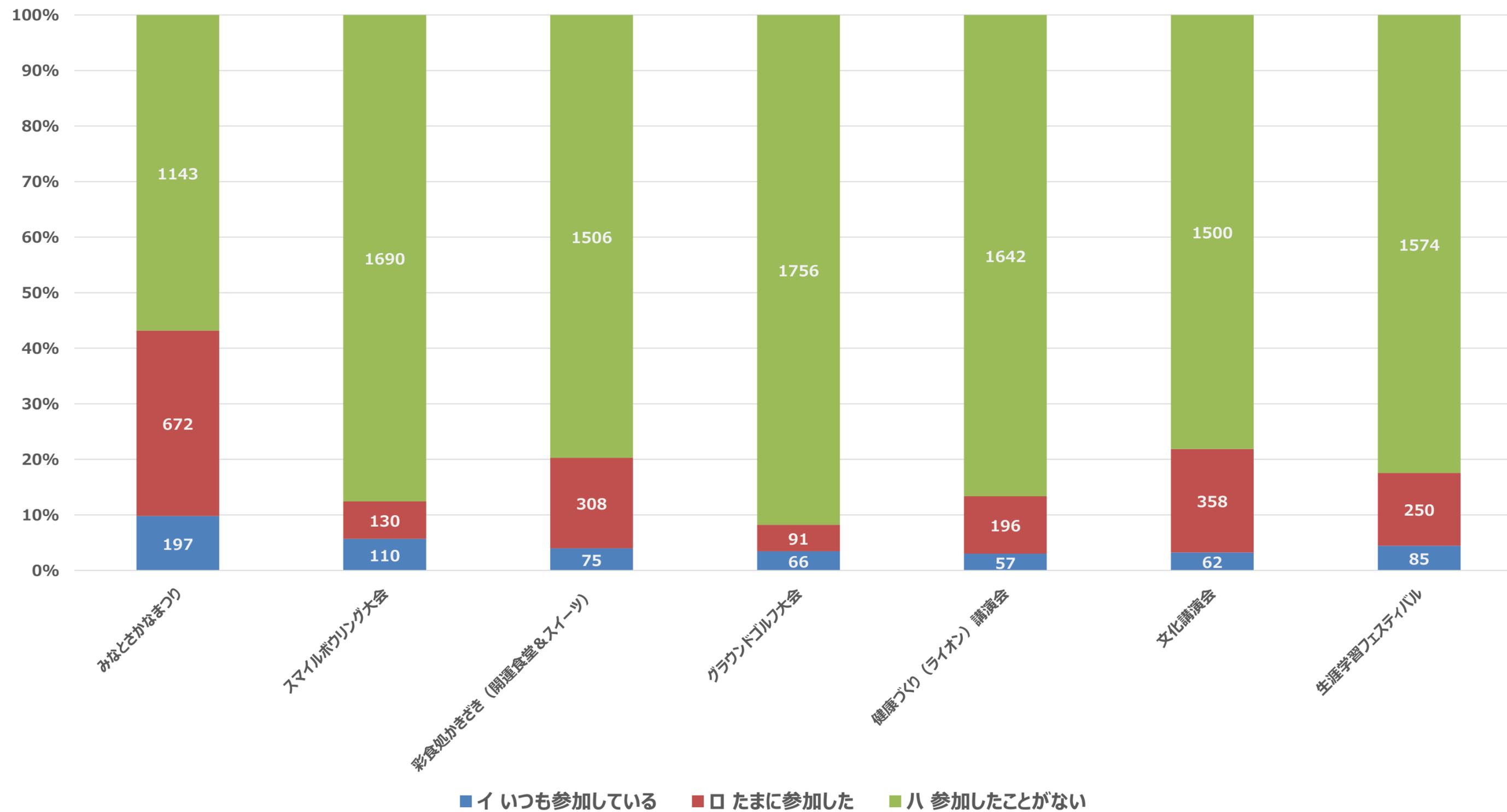


振興会事業 取り組んでほしいか





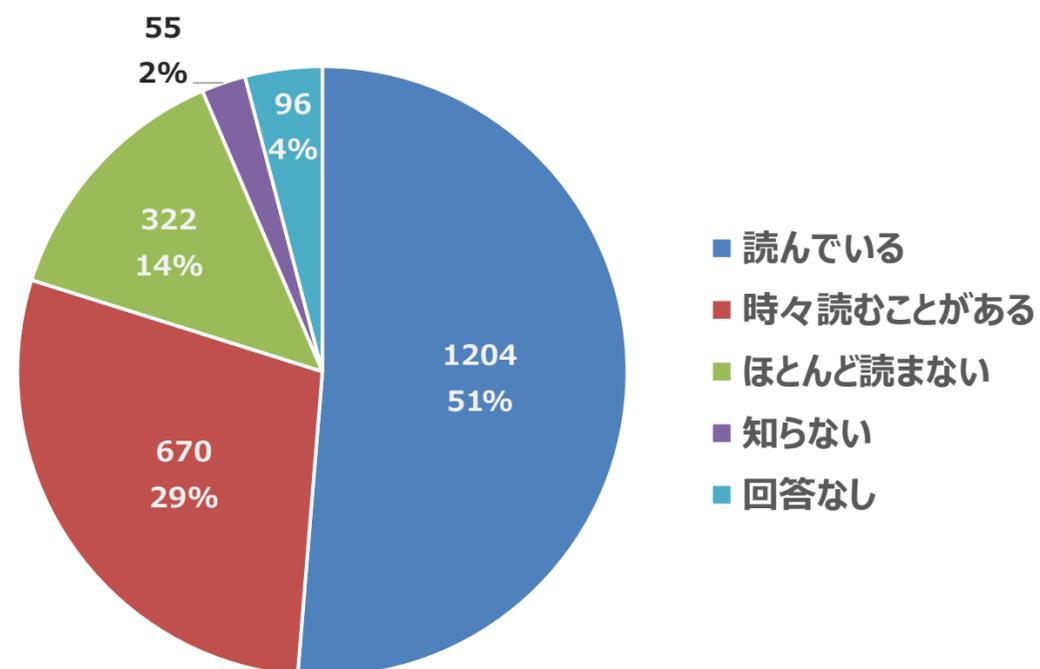
振興会事業 参加したことがあるか



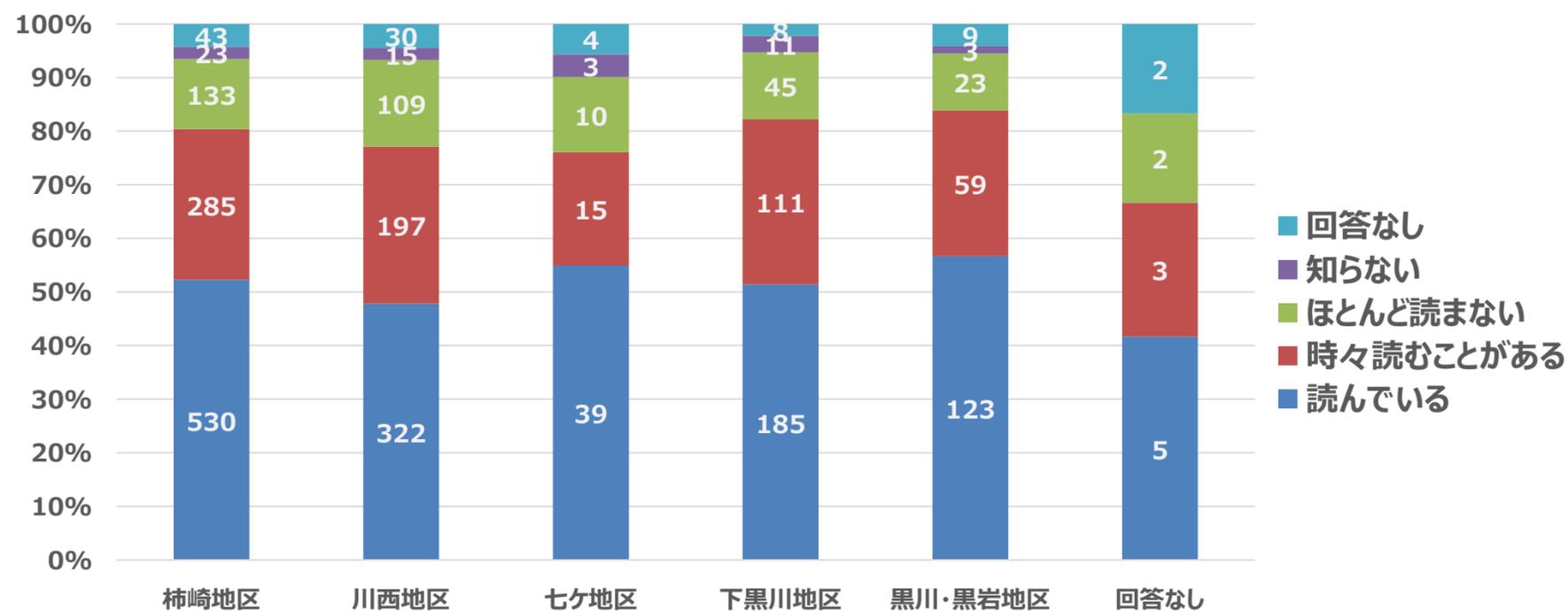


かわらばん 読んでいる？

全体



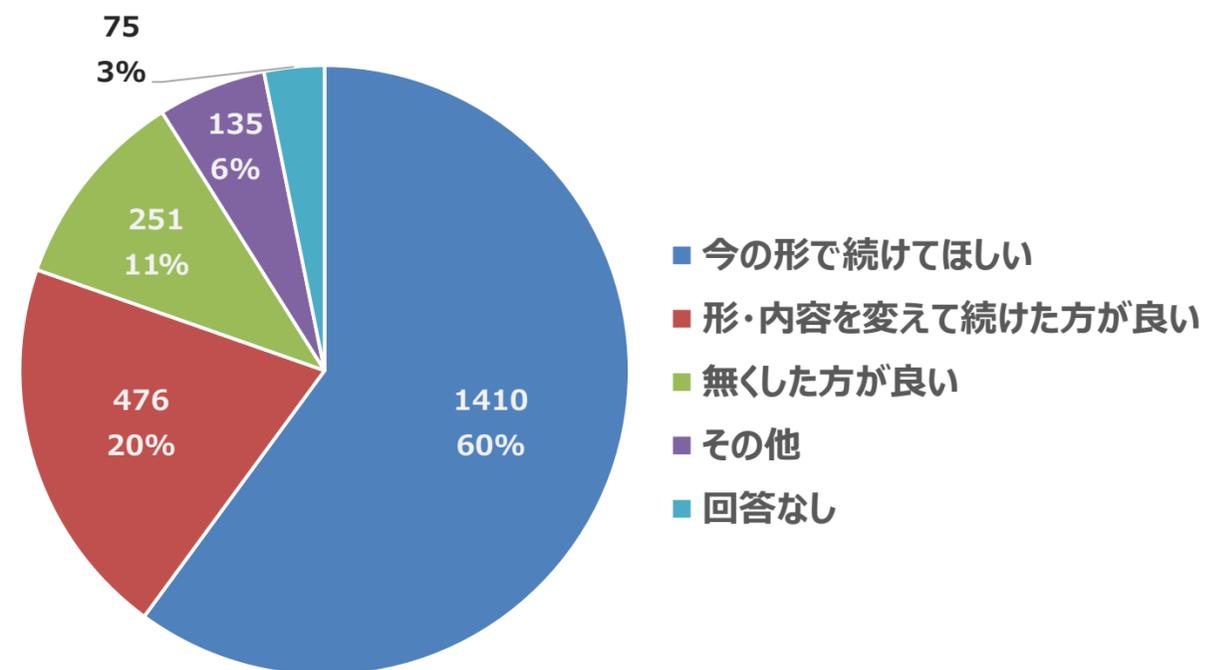
地区別



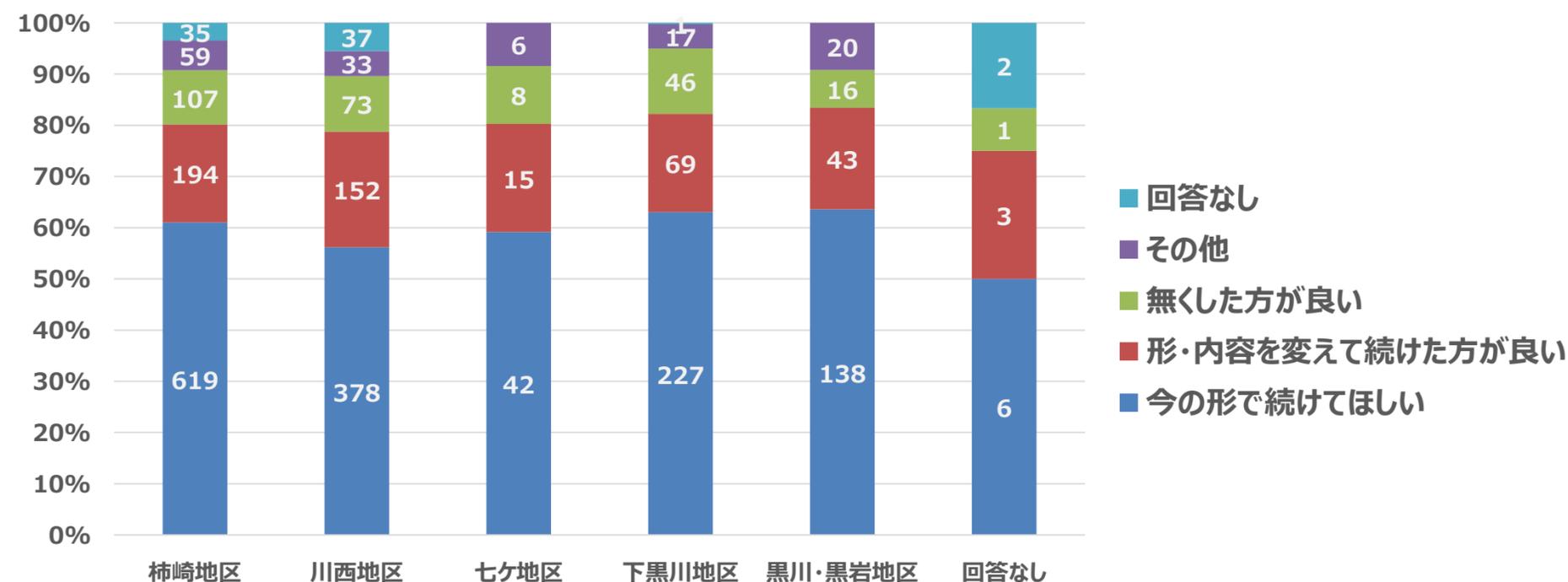


かわらばんの今後

全体



地区別





▼ かわらばんの今後について 自由意見

1. 廃止や無関心の意見

- 廃止を容認:「無くしても構わない」「なくても良い」との意見が多い。
- 関心の欠如:「読まない」「興味がない」「内容がわからない」という意見が多数。
- 費用対効果:「経費が負担なら廃止またはWEB配信に変更すべき」という意見。

2. 継続の意見

- 現状維持の希望:「今の形でよい」「楽しみにしている」「柿崎の歴史や地域の様子が分かって良い」。
- 内容の充実:イベント結果や写真、活動の裏側や工夫を盛り込んで、新たな関心を引き出す紙面作りを希望。

3. 改善・変更の提案

- カラー化:「見やすくするためにカラー印刷にしてほしい」という意見が複数。
- WEB配信:「WEB版やインターネットで閲覧可能にしてほしい」「動画の導入」を求める声。
- 写真やデザインの改善:写真を見やすくする、目を引くデザインや若者にも分かりやすい内容に。

4. 問題点や課題

- 類似広報の多さ:「似たような広報が多すぎて意義がわからない」「広報紙の役割を明確化すべき」。
- 認知不足:「かわらばんが何なのか分からない」「活動内容が不明で関心を持ってない」という声。
- 配布方法の見直し:「必要な世帯だけ配布する」「紙の無駄を省き、効率的な運営を」。

5. その他の意見

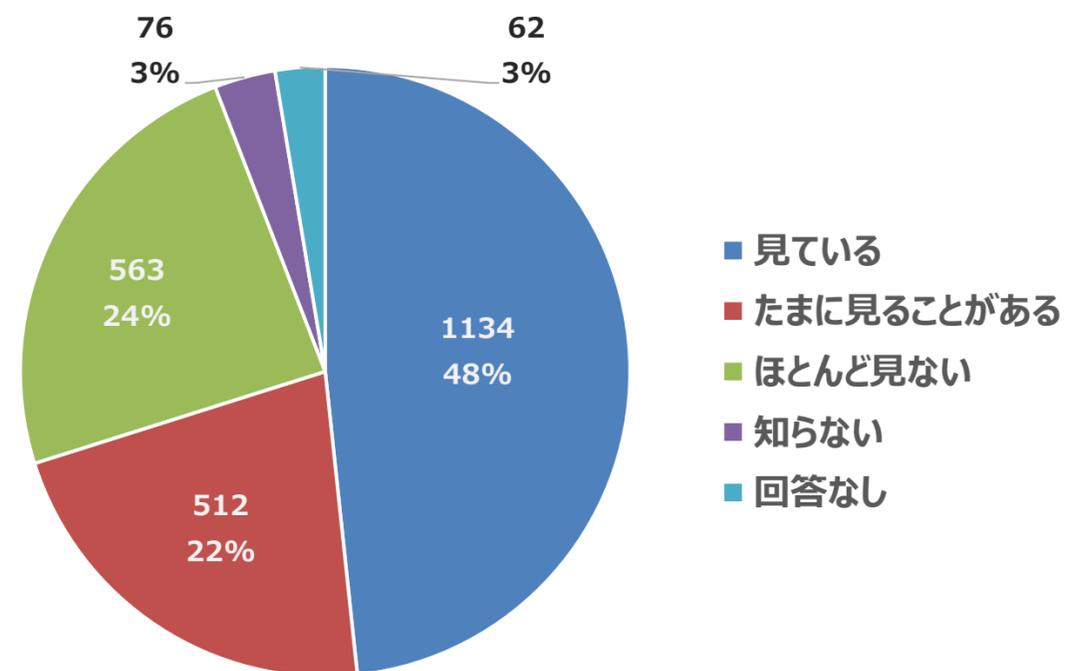
- 地域振興への期待:「振興会のPRを強化し、活動をもっと周知すべき」。
- 住民ニーズへの対応:「若い世代や高齢者向けに分かりやすく親しみやすい内容を求める」。
- 発行頻度の調整:「発行回数を減らし、スタッフの負担軽減を図る」。

「かわらばん」の今後について、廃止や無関心の意見が一定数ある一方で、現状維持や内容の充実を求める声も多い。具体的には、カラー化やWEB配信、写真の見やすさの改善、活動内容の明確化が主な改善要望として挙げられています。また、広報紙の役割や意義を明確化し、住民の関心を引く工夫が求められています。

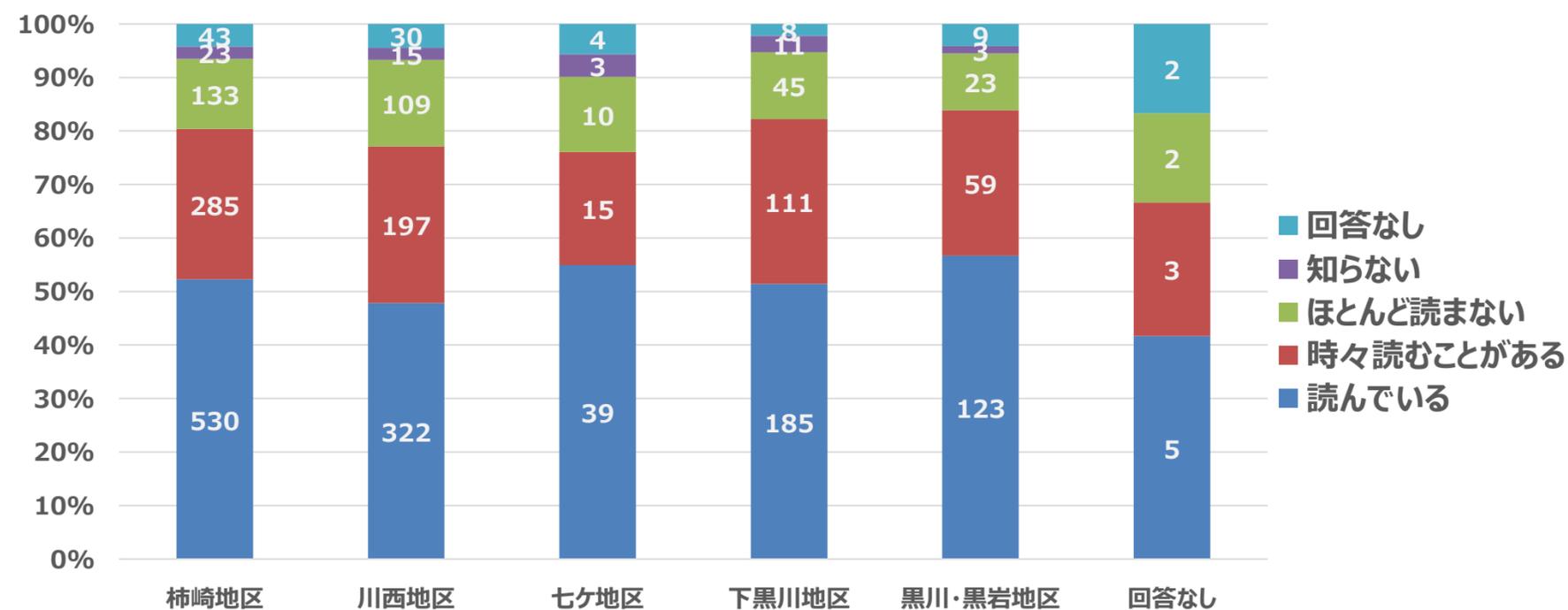


▼ まちづくりカレンダー 見ている？

全体



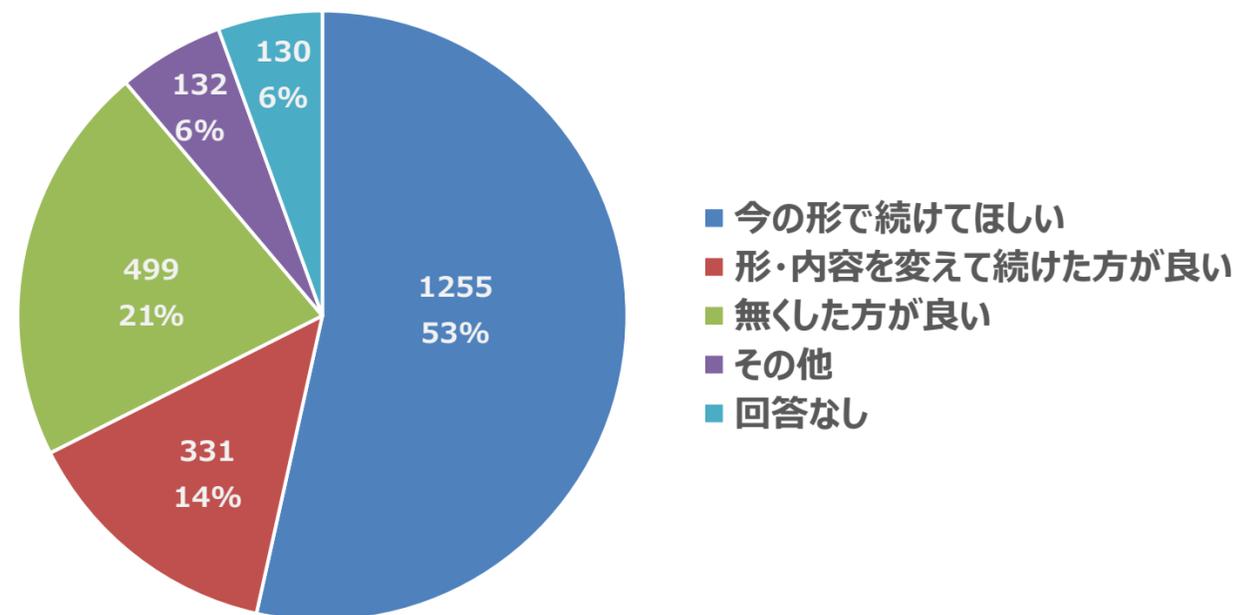
地区別



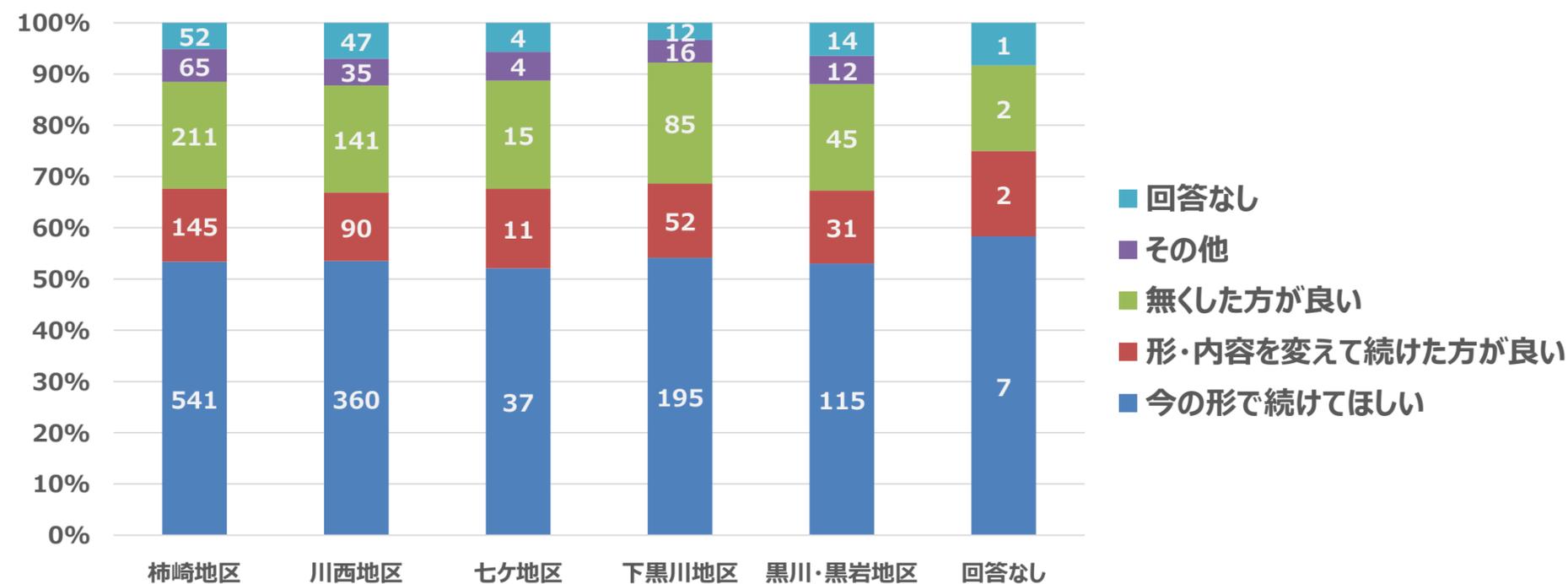


まちづくりカレンダーの今後

全体



地区別





▼ まちづくりカレンダーの今後について 自由意見

1. 廃止や縮小を求める意見

- 不要との声
 - 「必要ない」「無くしても良い」という意見が多い。
 - 小中学生のいない家庭や高齢者世帯では利用価値を感じない。
 - 他のカレンダーが多く、経費や資源の無駄との指摘。
- 配布対象の見直し
 - 必要な家庭(子どものいる世帯や希望者)にのみ配布。
 - 全戸配布は不要、有償で希望者のみに配布する提案も。
- 代替案の提案
 - 「柿崎かわらばん」など既存の広報物に統合する。
 - 地域行事の情報は回覧板やウェブ配信に変更。

2. 継続や改善を求める意見

- 継続支持
 - 「柿崎区の行事がわかるので貴重」「楽しみにしている」との声がある。
 - 活用している家庭にとっては便利であるとの意見。
- 内容やデザインの改善提案
 - 学校行事以外の地域行事を増やし、幅広い層が使える内容に。
 - 書き込みスペースを増やす、デザインを横書きや見やすい形式に変更。
 - 縦長の形が使いにくい、一般的なカレンダー形式にすべきとの意見。
- 配布方法の改善
 - サイズ・コストを抑えた形に変更。
 - 経費の問題がなければ継続してほしいが、費用対効果を重視すべき。

3. WEBやデジタル化への要望

- WEB配信の提案
 - 「WEBで見られるように」「スマホ対応にする」との声が複数。
 - 紙媒体を廃止し、デジタルでの情報発信に切り替えるべきとの意見。

4. その他の意見

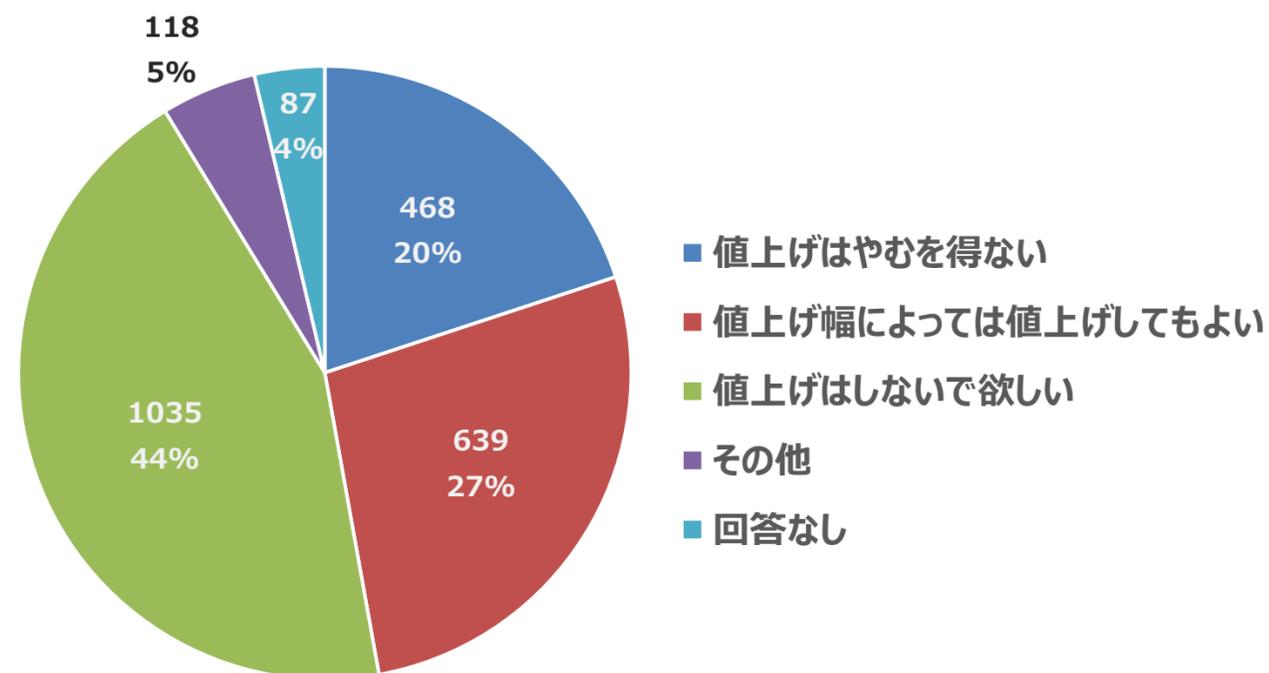
- 認知不足
 - 「まちづくりカレンダー」を知らない、見たことがないとの意見が多数。
 - 活用方法や目的が伝わっていない。
- 活用の工夫
 - 「今日は何の日」などのコラムを追加し、関心を引く内容にする提案。
 - 地域行事を計画する町内会のスケジュール共有に活用する案も。

「まちづくりカレンダー」について、廃止や縮小を支持する意見が多い一方で、継続を望む声も一定数あります。主に、配布対象の限定化や内容・デザインの改善、デジタル化への移行が求められています。また、認知不足が課題で、利用価値を明確化し住民に周知することも重要です。

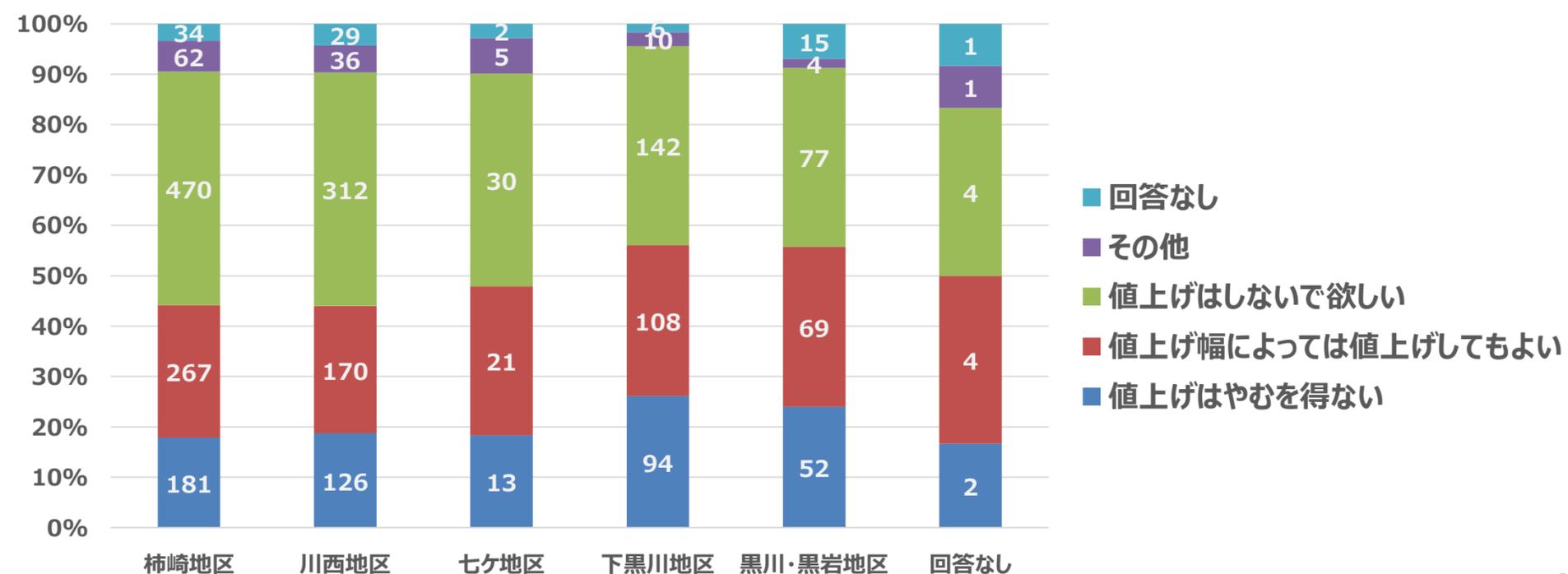


▼ 会費の値上げについて

全体



地区別





▼ 会費の値上げについて 自由意見

1. 値上げに対する賛成意見

- やむを得ない場合の容認
 - 必要性や効果が明確であれば値上げを容認する意見。
 - 活動内容や事業計画を住民に説明し、納得させる必要がある。
 - 値上げ分に見合う成果(地域活性化など)が期待される場合、許容する意見も。

2. 値上げに反対する意見

- 経済的負担の増加
 - 年金生活者や低所得家庭には現行の1,000円でも負担が重いとの声。
 - 高齢化が進む地域では、値上げは避けるべきとの指摘。
- 活動内容の見直しを優先
 - 値上げ前に経費削減や活動の精査を求める意見が多い。
 - 無駄な行事や不要な出費を減らし、現行会費で運営を継続すべき。

3. 会費納入の公平性と徴収方法の問題

- 未納世帯への対応
 - 全世帯から公平に徴収する仕組みを整えるべきとの意見。
 - 会費を払わない世帯へのサービス提供を疑問視する声。
- 徴収方法の改善
 - 任意会費ではなく、強制的に全世帯から徴収する仕組みを提案する声も。
 - 町内会費などと統合するなどの工夫を求める意見。

4. 事業や活動への意見

- 事業縮小や費用対効果の見直し
 - 極端な人口減少に対応した事業規模の縮小を提案。
 - 一部の人だけが恩恵を受ける活動は不公平との意見。
- イベント時の協力金制度
 - イベント参加者から協力金を徴収し、会費負担を減らす提案。

5. その他の意見

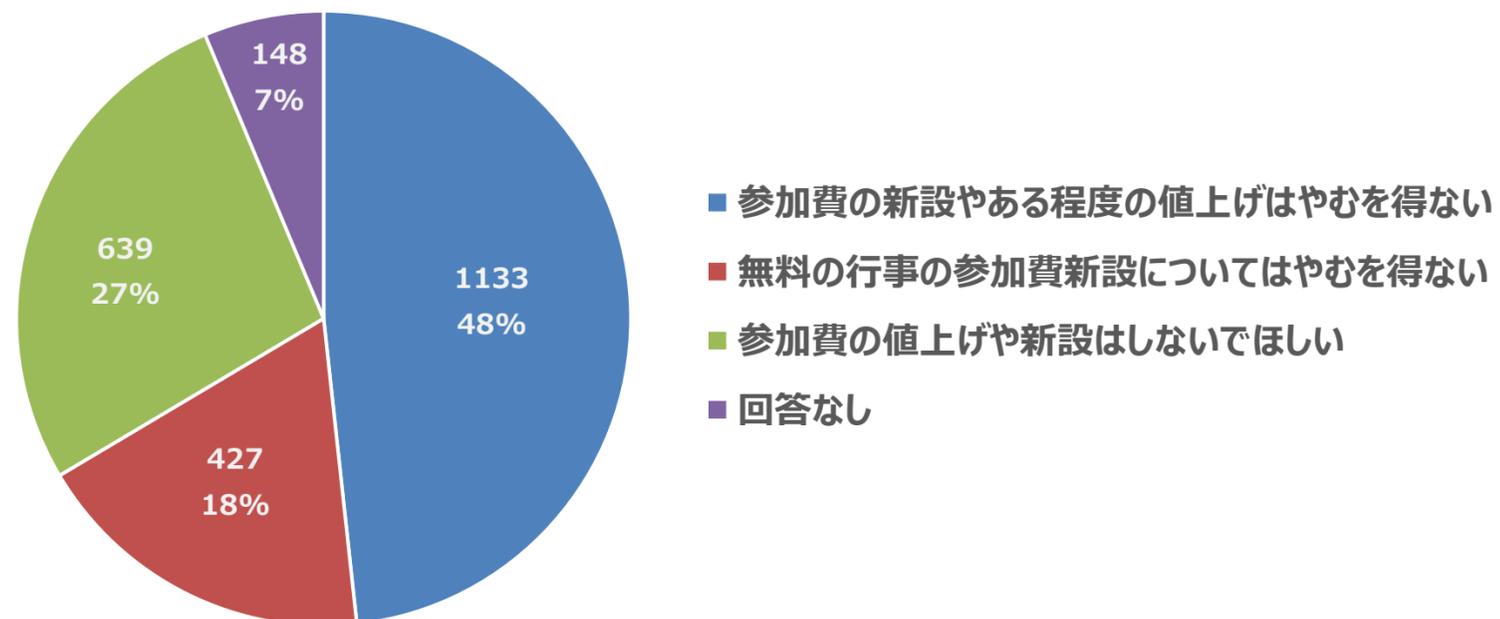
- 透明性の向上
 - 会計報告を詳細に公開し、予算の用途を明確にする必要がある。
 - 活動内容が不明確な場合、住民は会費支払いを拒否する傾向。
- NPO法人化や行政支援
 - NPO法人化や市・県からの補助金で活動を支える案。

会費値上げについて、住民の意見は賛否両論ありますが、「公平な徴収」「活動内容の精査」「費用対効果の説明」「経費削減」が重要なテーマとして挙げられています。また、活動内容の透明性を高めることで住民の納得を得る必要があります。値上げが避けられない場合でも、明確な根拠と説得力が求められています。

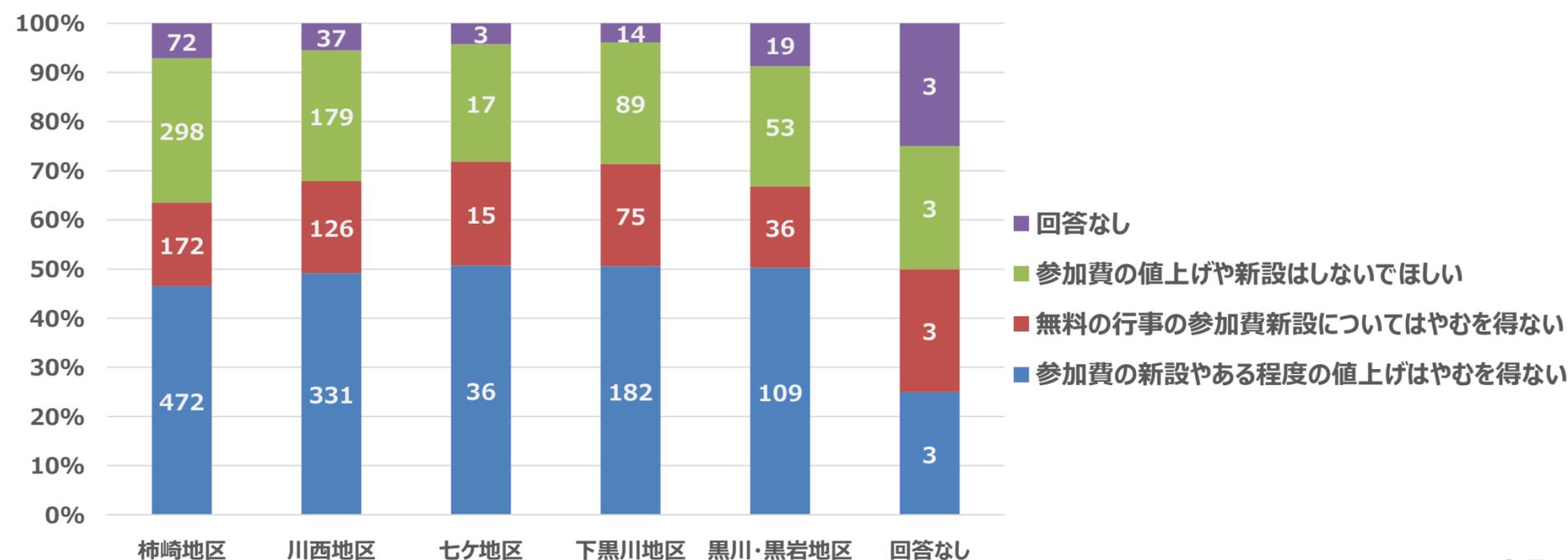


行事の参加費の値上げ及び新設について

全体



地区別

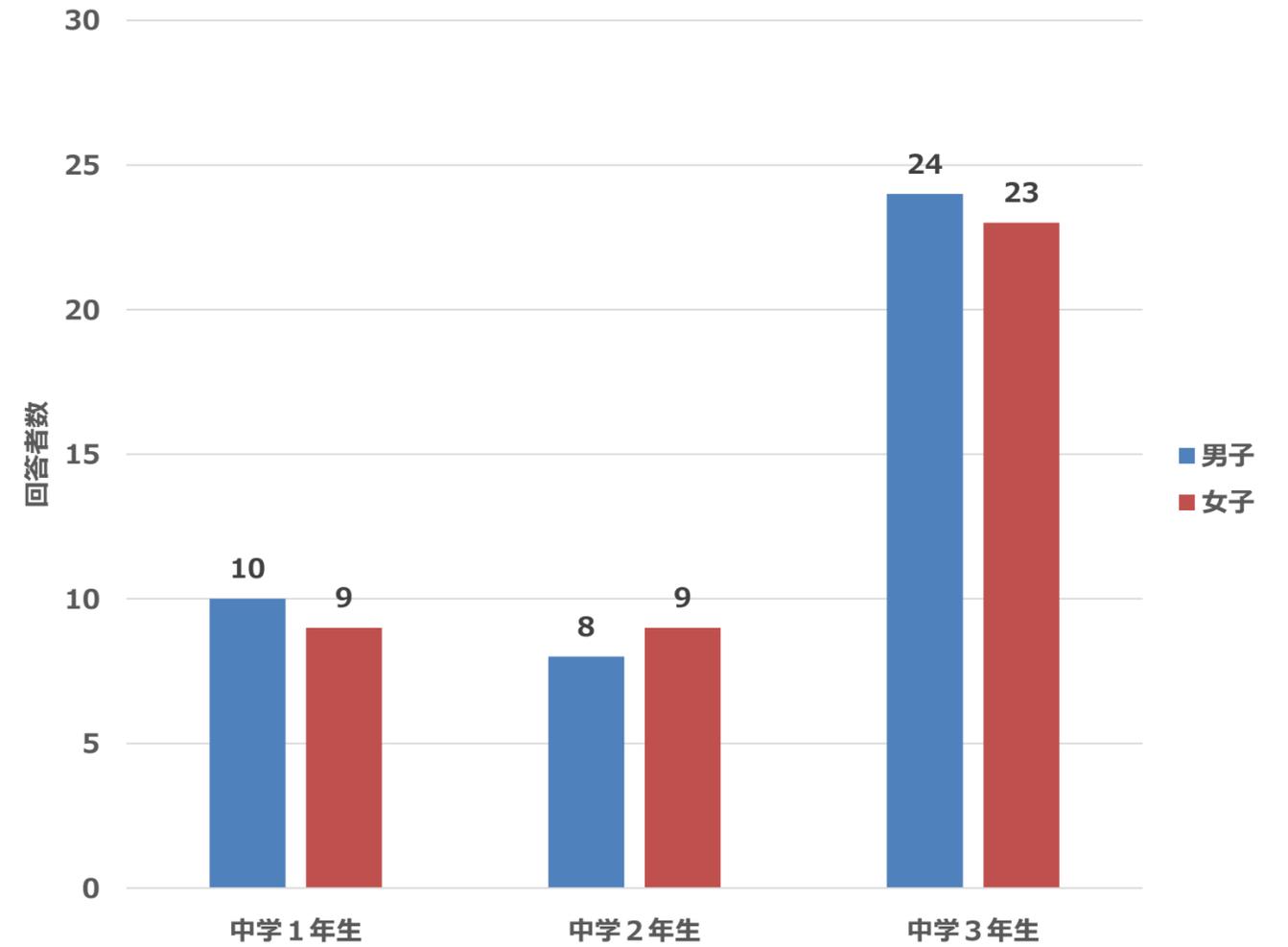
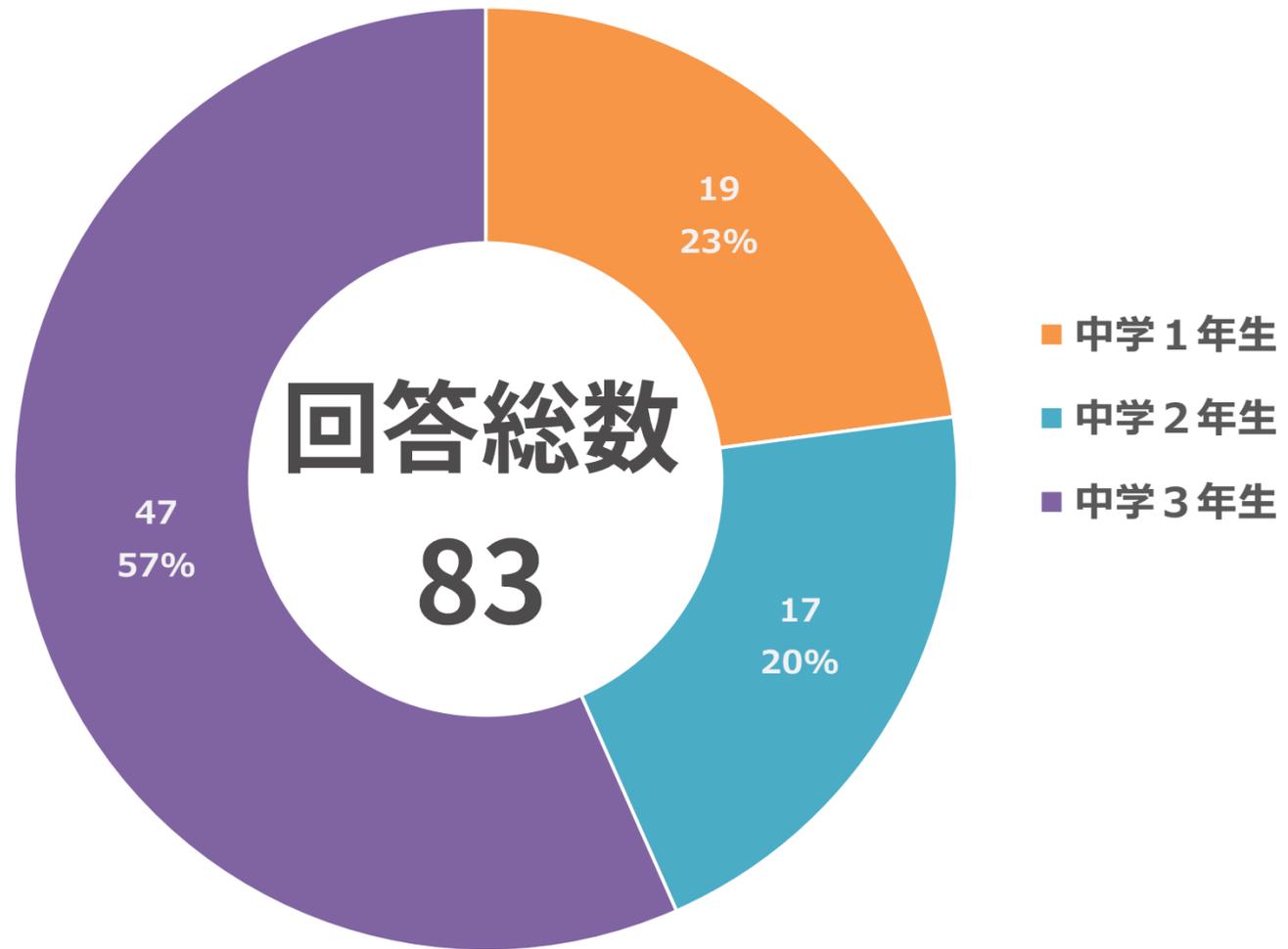


03

中学生向けアンケート 結果

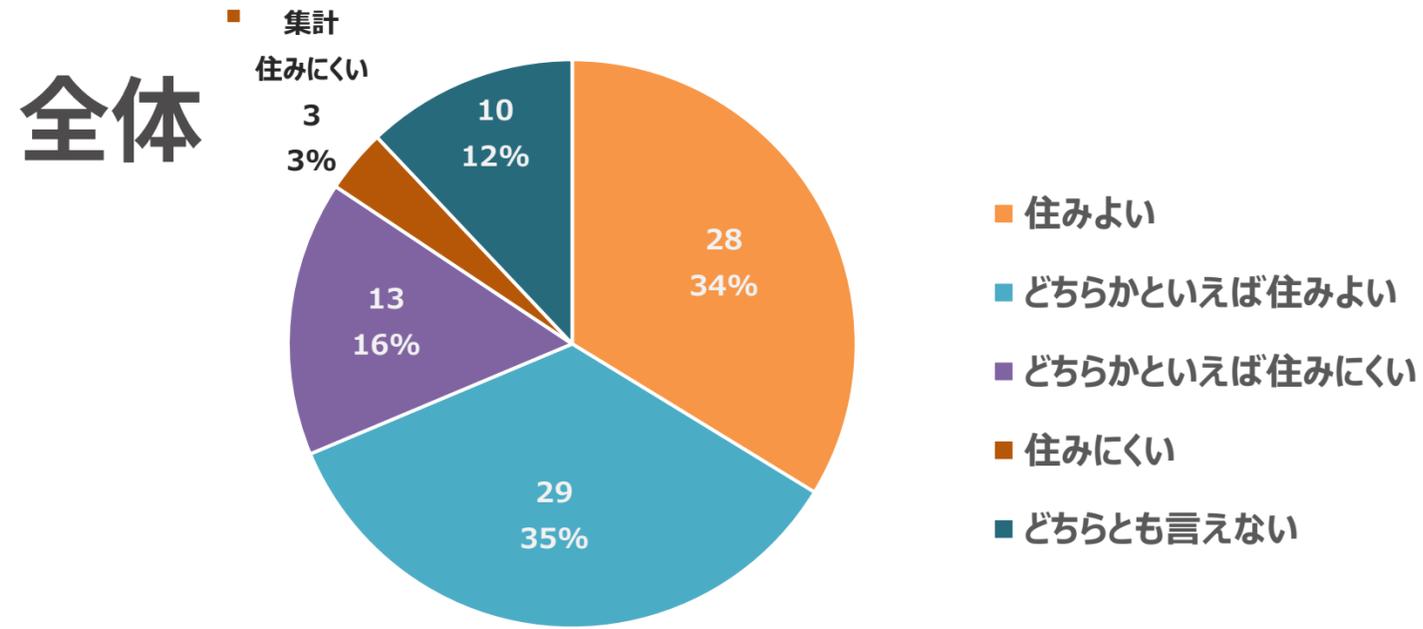


学年別回答数

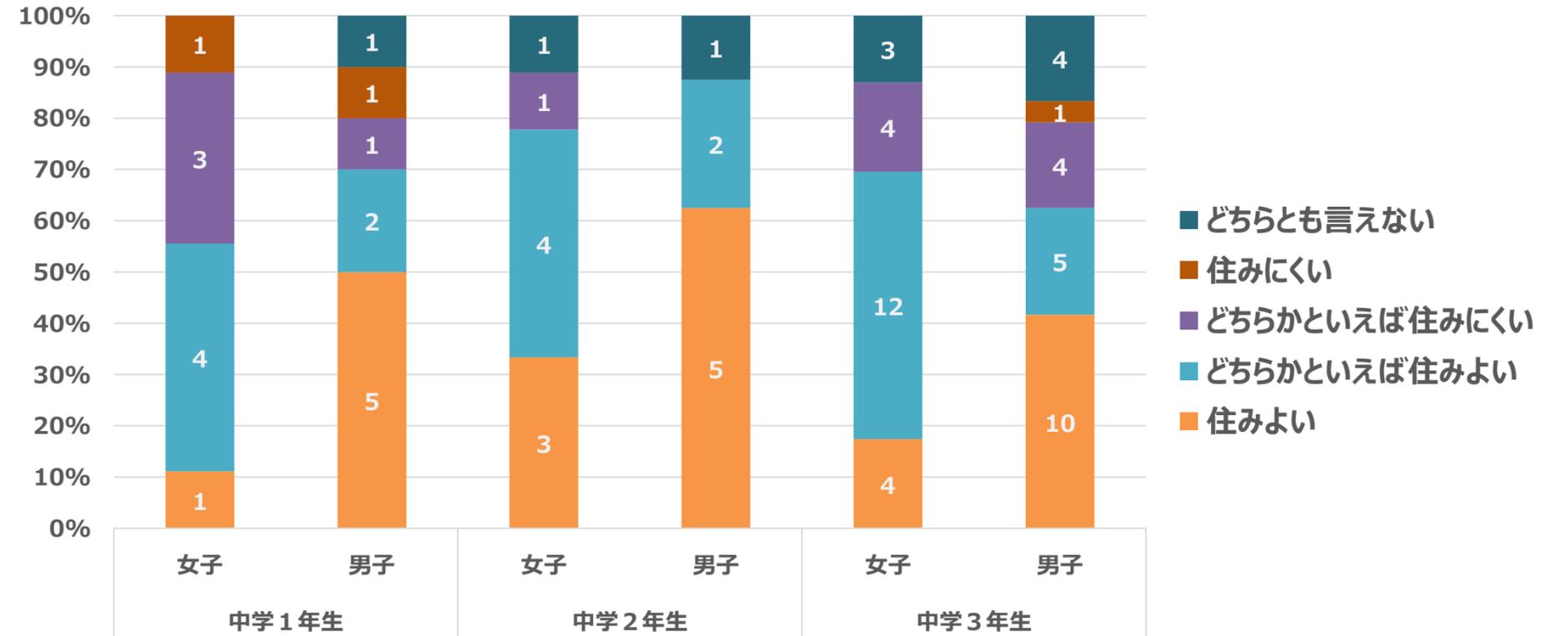




柿崎区は住みよいですか



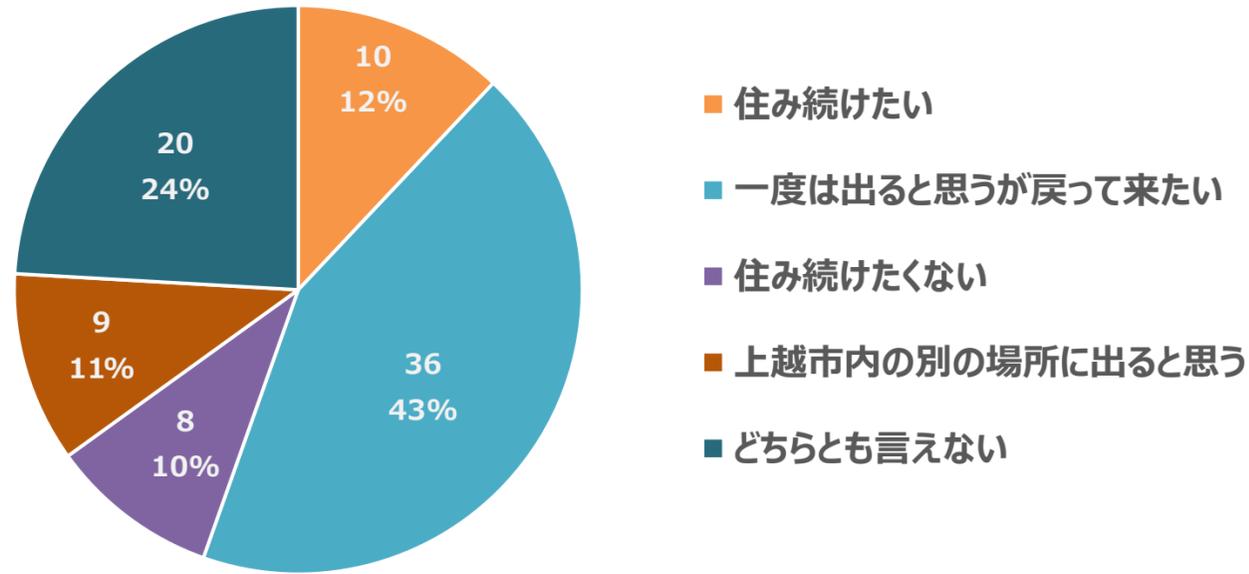
学年・男女別



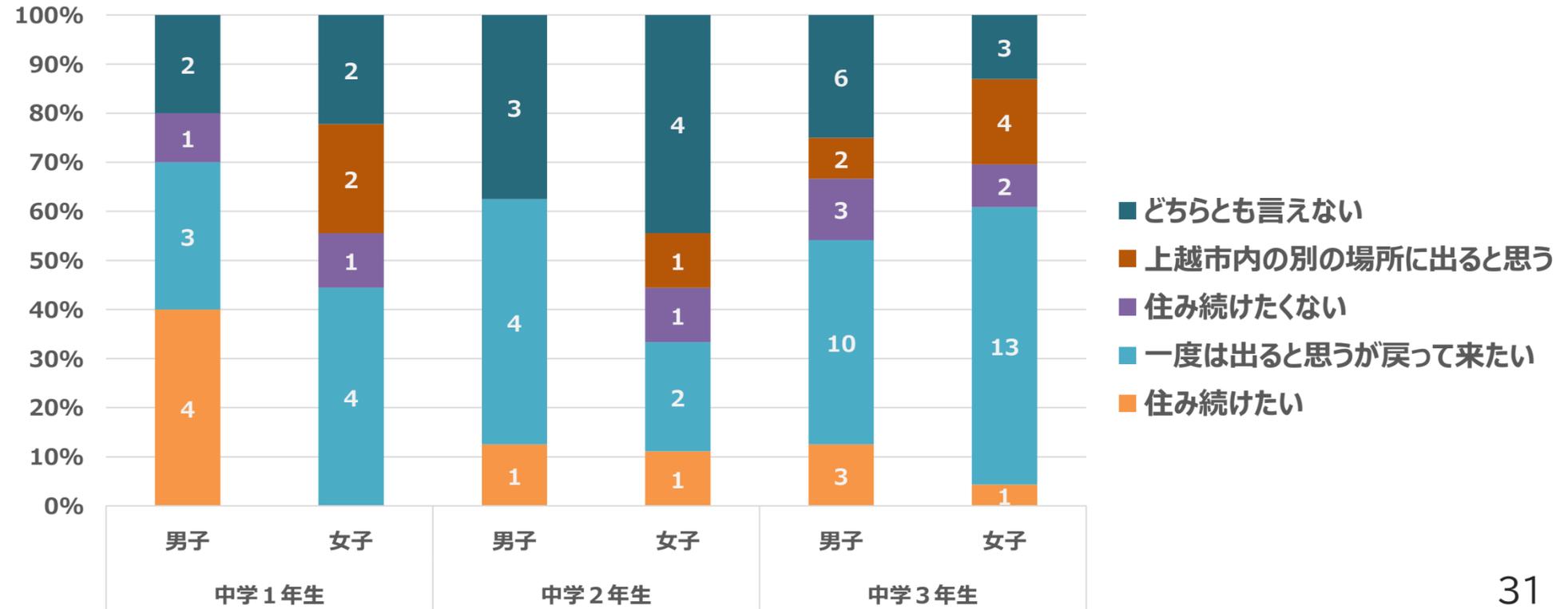


柿崎区に住み続けたいと思いますか

全体



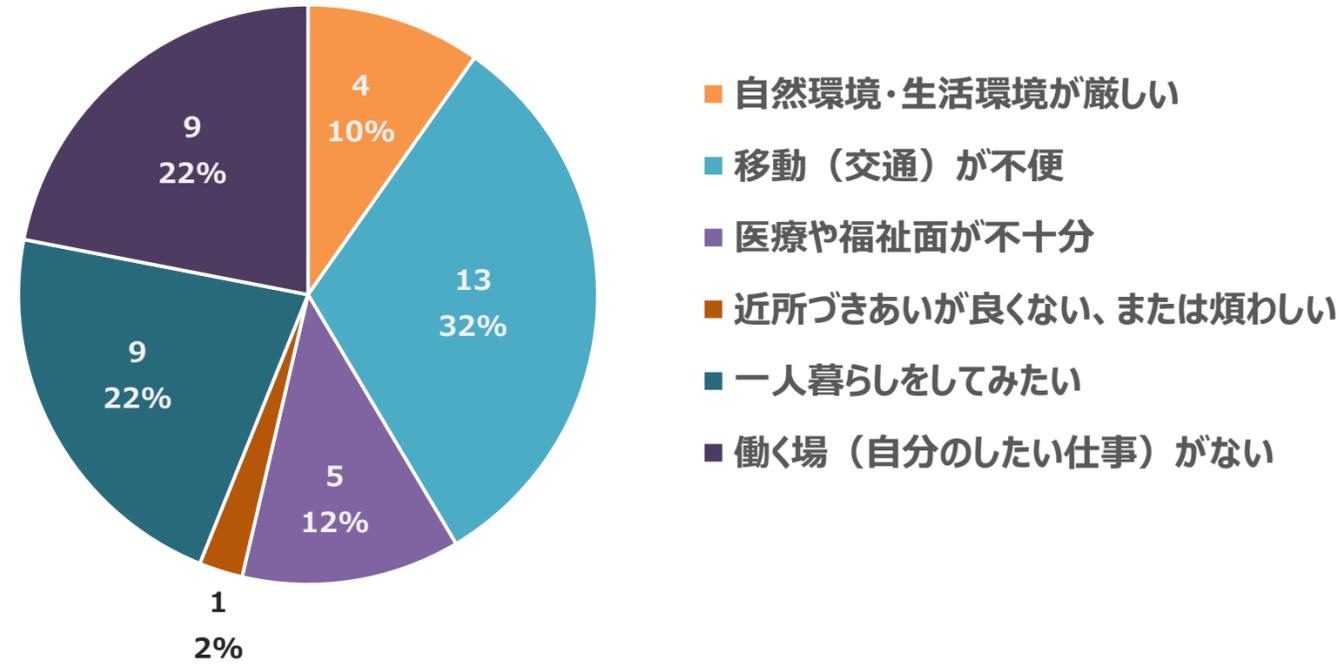
学年・男女別



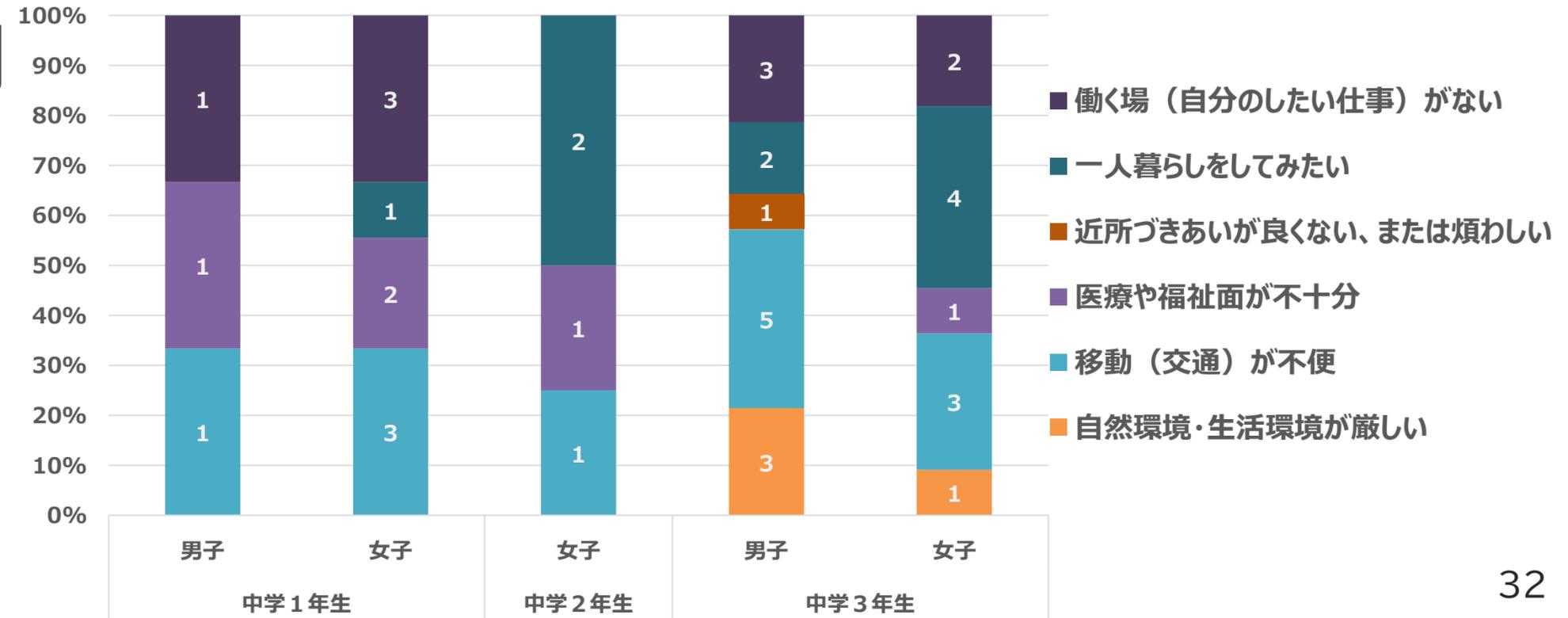


「住み続けたくない」「上越市内の別の場所に出ると思う」理由

全体



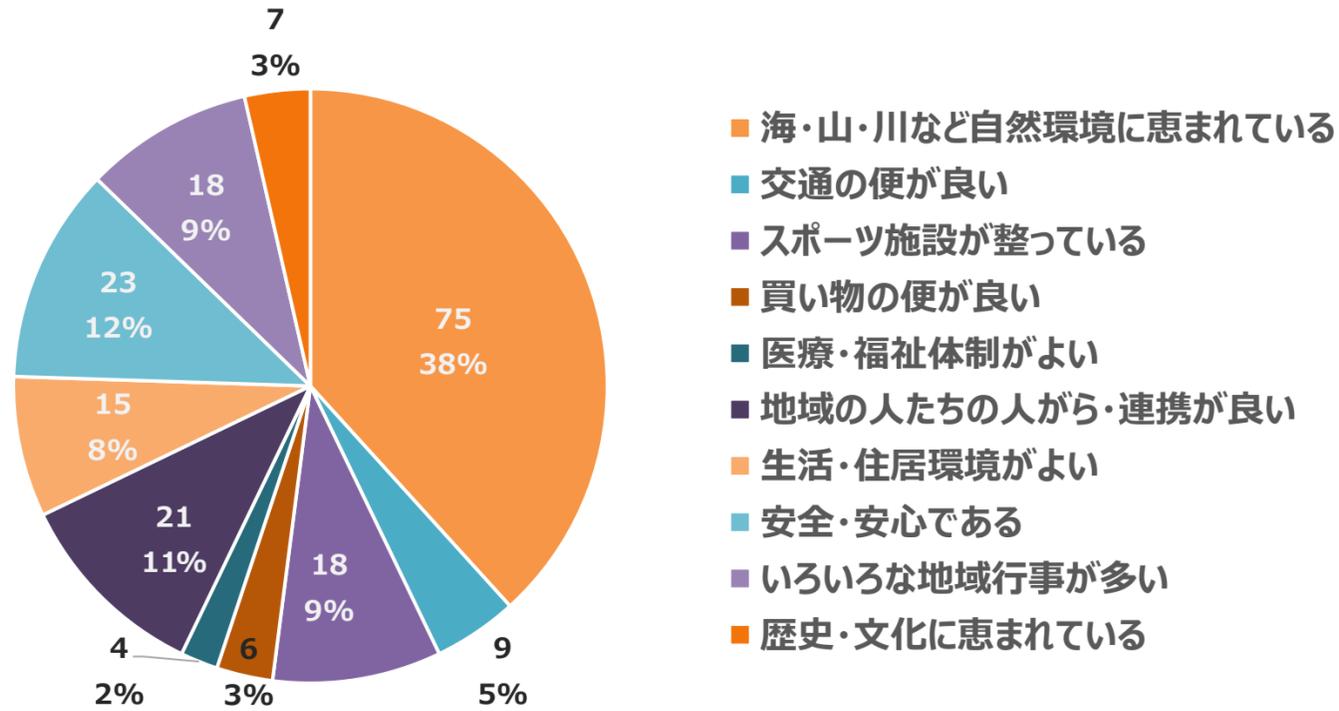
学年・男女別



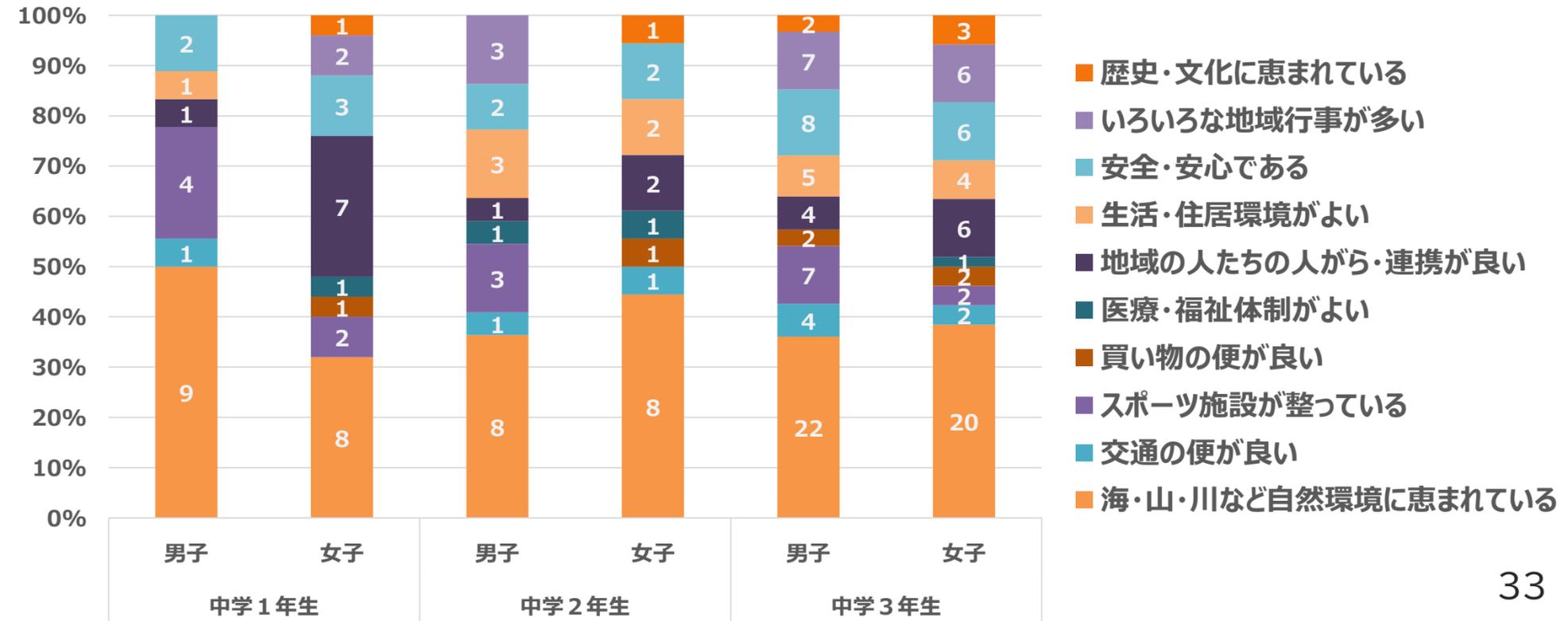


柿崎区の良いと思うところ

全体



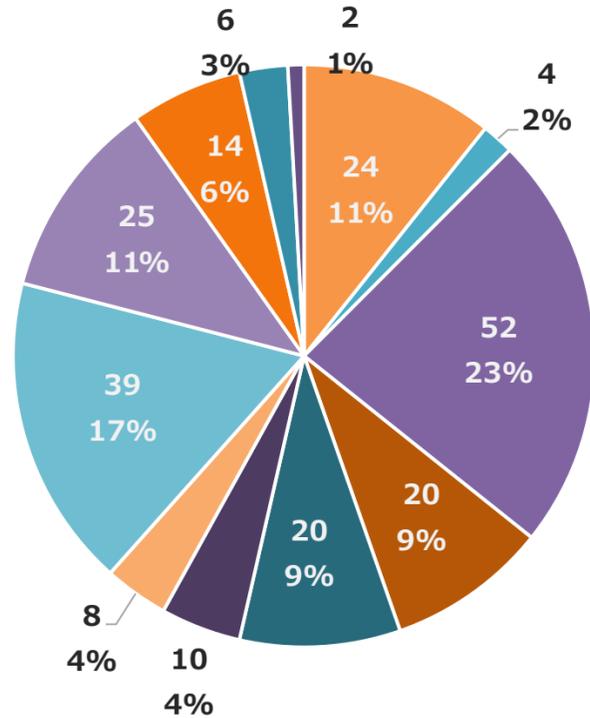
学年・男女別





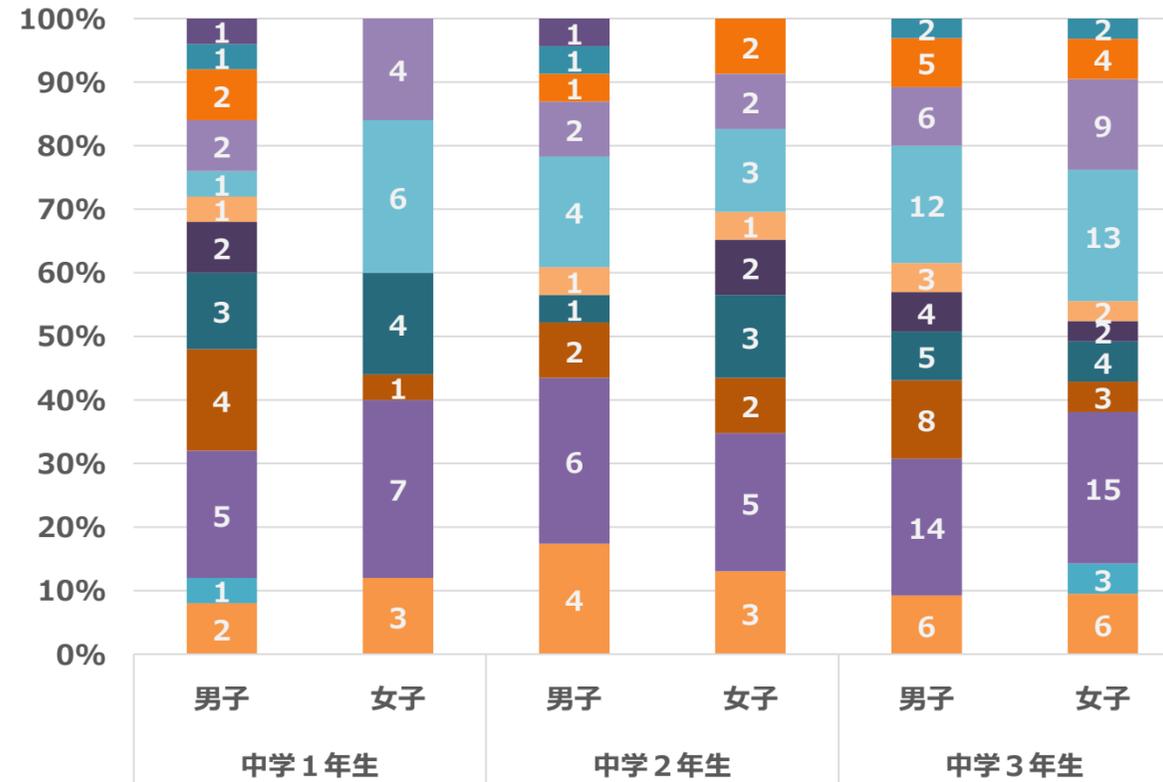
柿崎区の将来像として期待する姿

全体



- 公園やレジャー施設があるまち
- 文化活動が盛んで・文化施設があるまち
- 商店、飲食店が多く、商業が盛んなまち
- スポーツ活動が盛んなまち
- 若者の集まりやイベントが定期的にあるまち
- 観光や交流事業が盛んなまち
- 歴史・伝統文化を大切にするまち
- 若者、子育て世代が希望をもって暮らせるまち
- 人のつながりが温かく地域コミュニティのあるまち
- 農業が盛んで特産品があるまち
- ボランティア活動が盛んなまち
- その他

学年・男女別

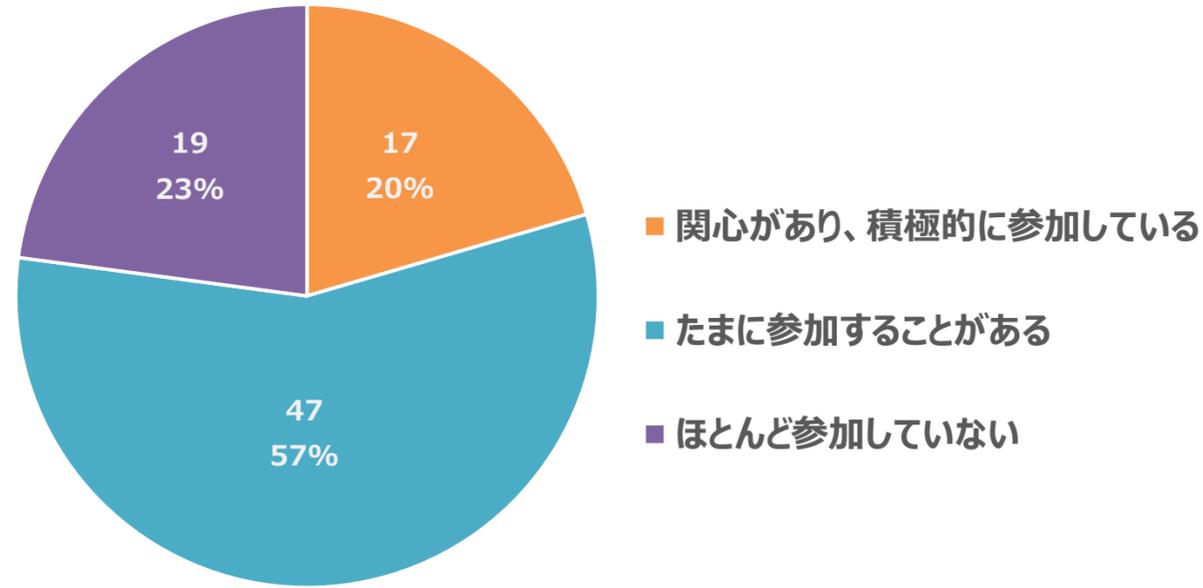


- その他
- ボランティア活動が盛んなまち
- 農業が盛んで特産品があるまち
- 人のつながりが温かく地域コミュニティのあるまち
- 若者、子育て世代が希望をもって暮らせるまち
- 歴史・伝統文化を大切にするまち
- 観光や交流事業が盛んなまち
- 若者の集まりやイベントが定期的にあるまち
- スポーツ活動が盛んなまち
- 商店、飲食店が多く、商業が盛んなまち
- 文化活動が盛んで・文化施設があるまち
- 公園やレジャー施設があるまち

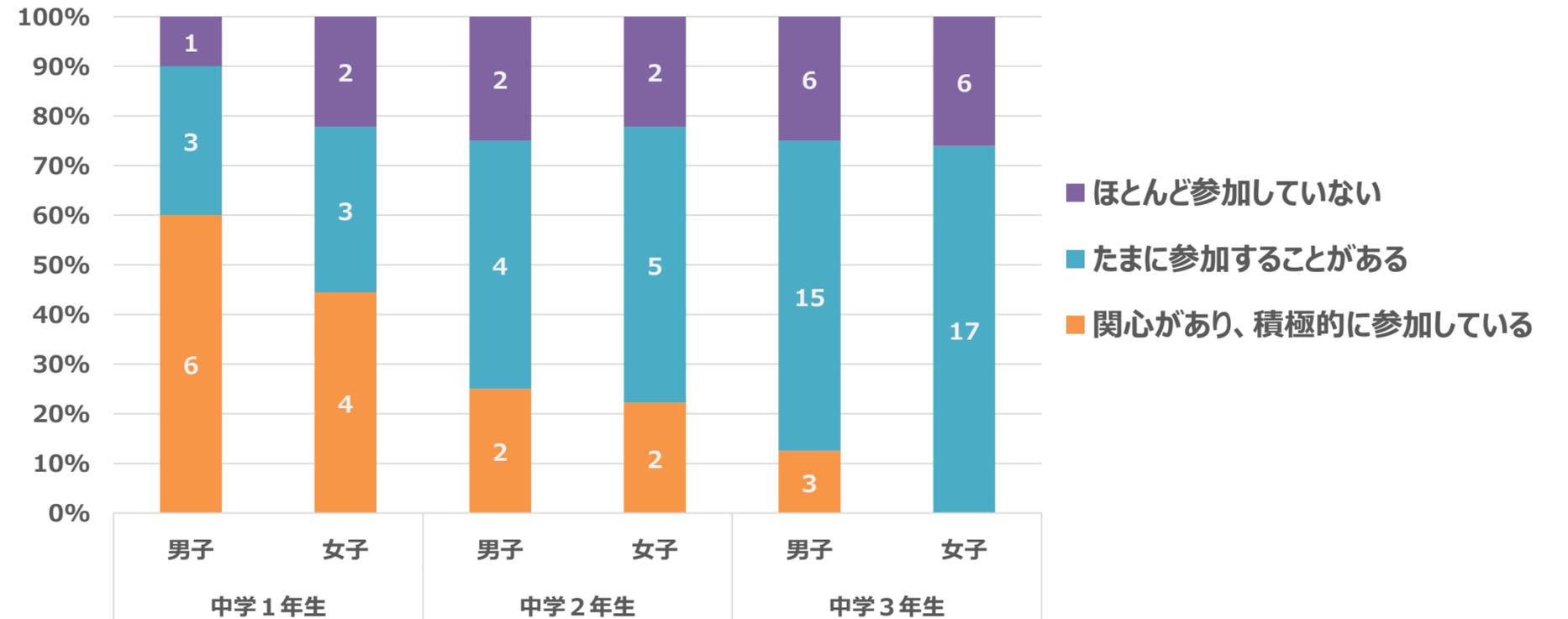


▼ 地域活動への関心

全体



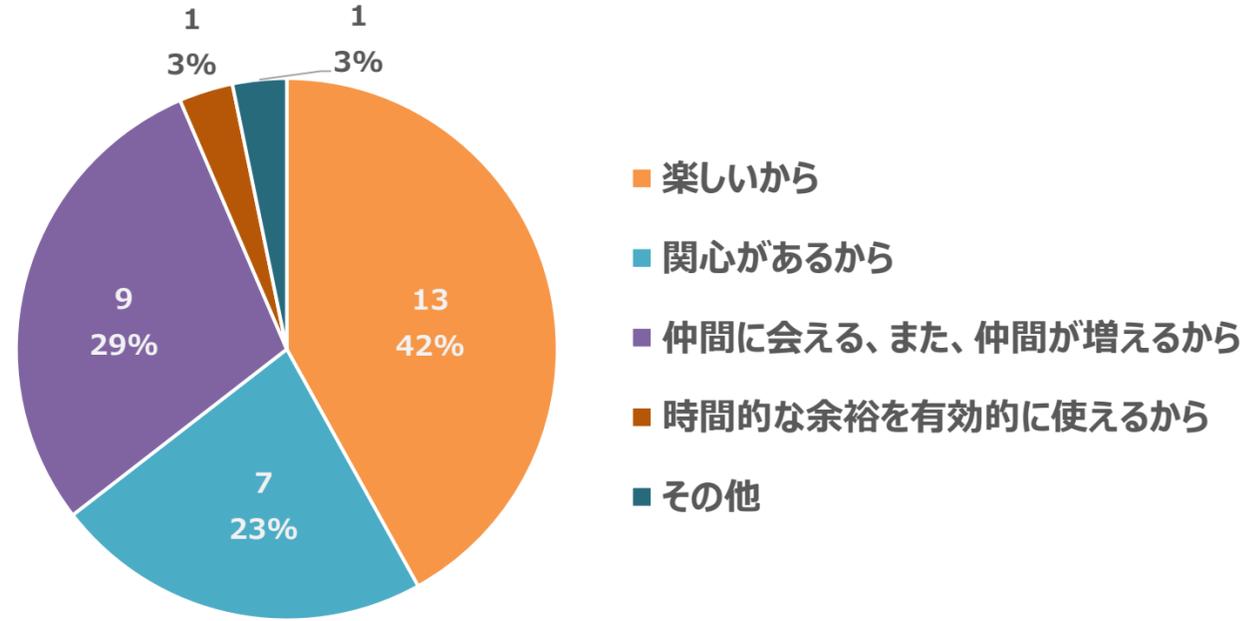
学年・男女別



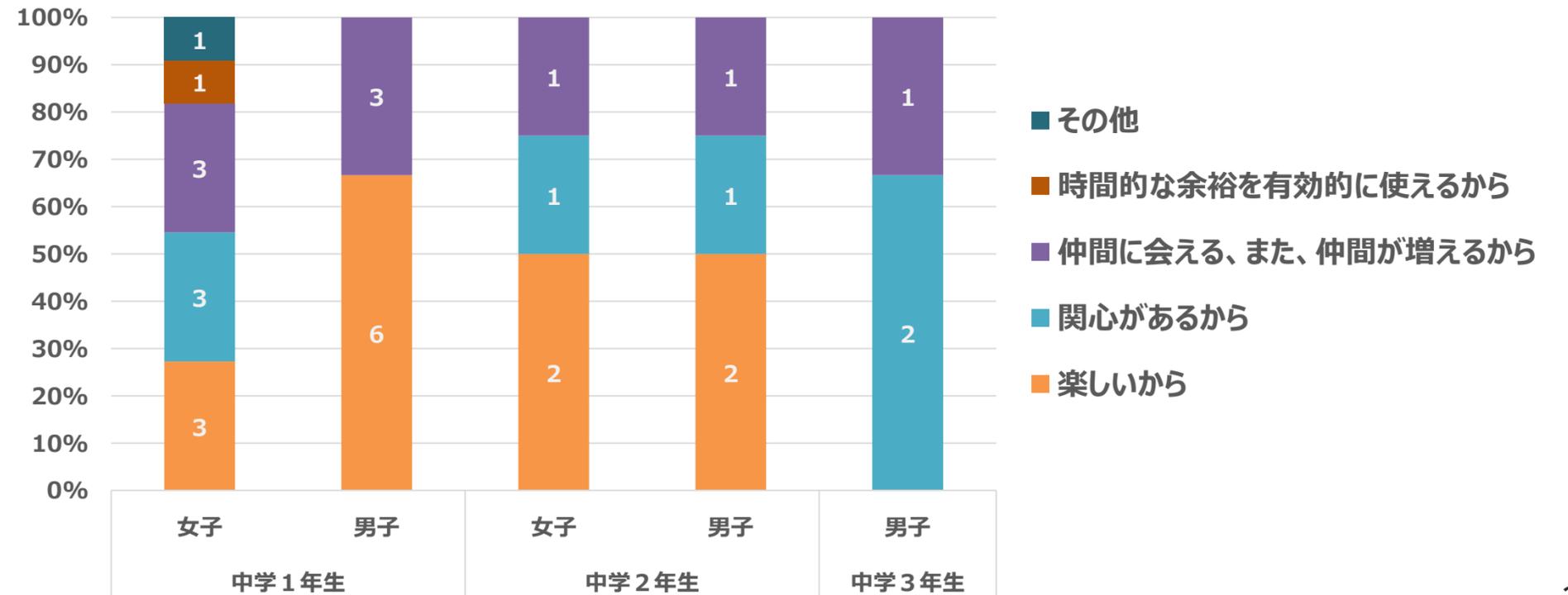


「関心があり、積極的に参加している」理由

全体



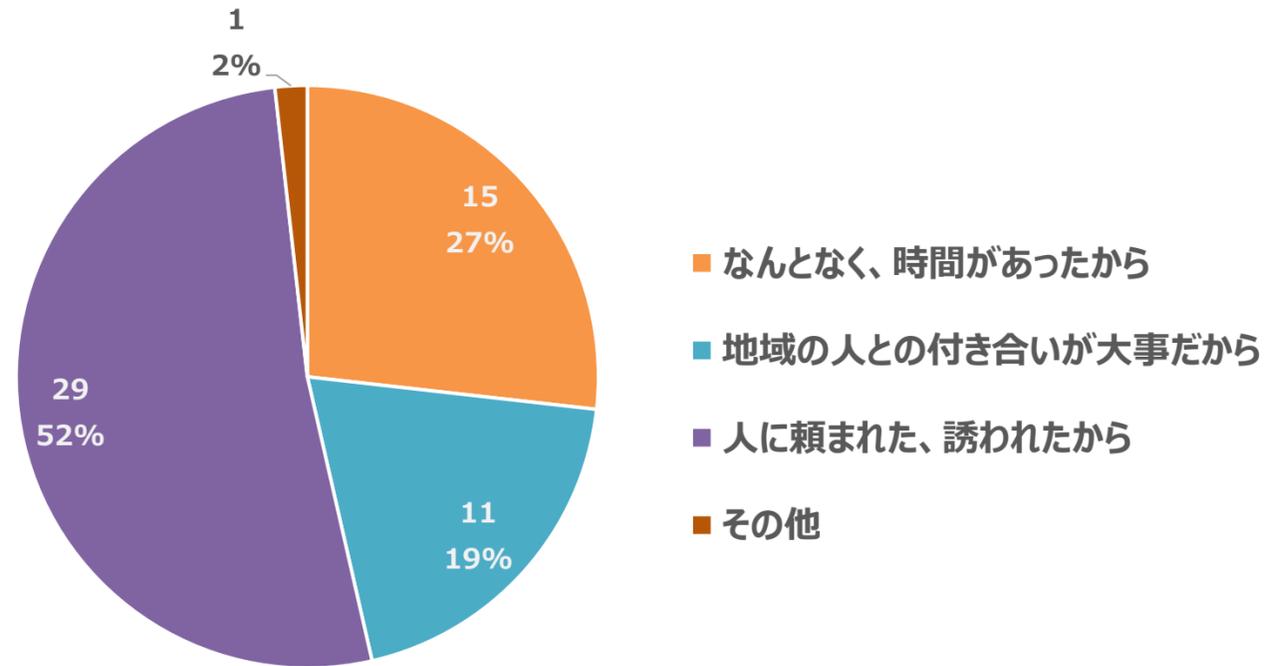
学年・男女別



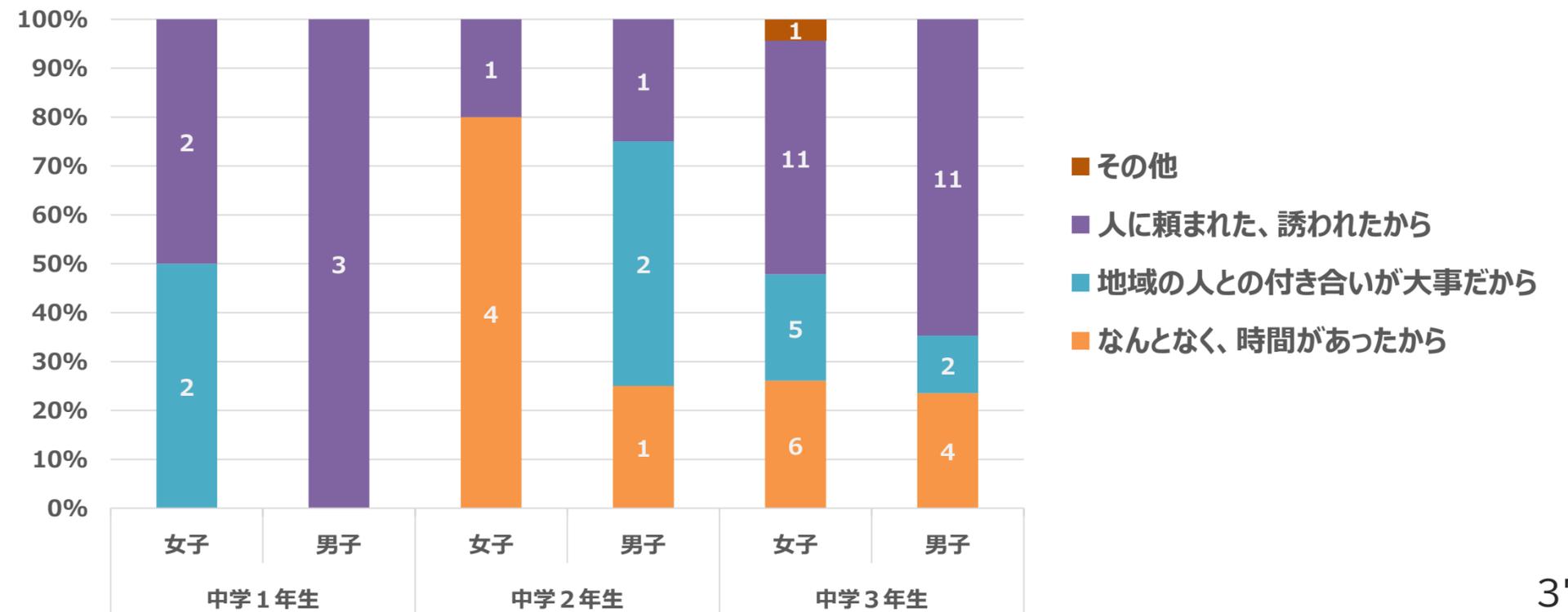


▼ 「たまに参加することがある」理由

全体



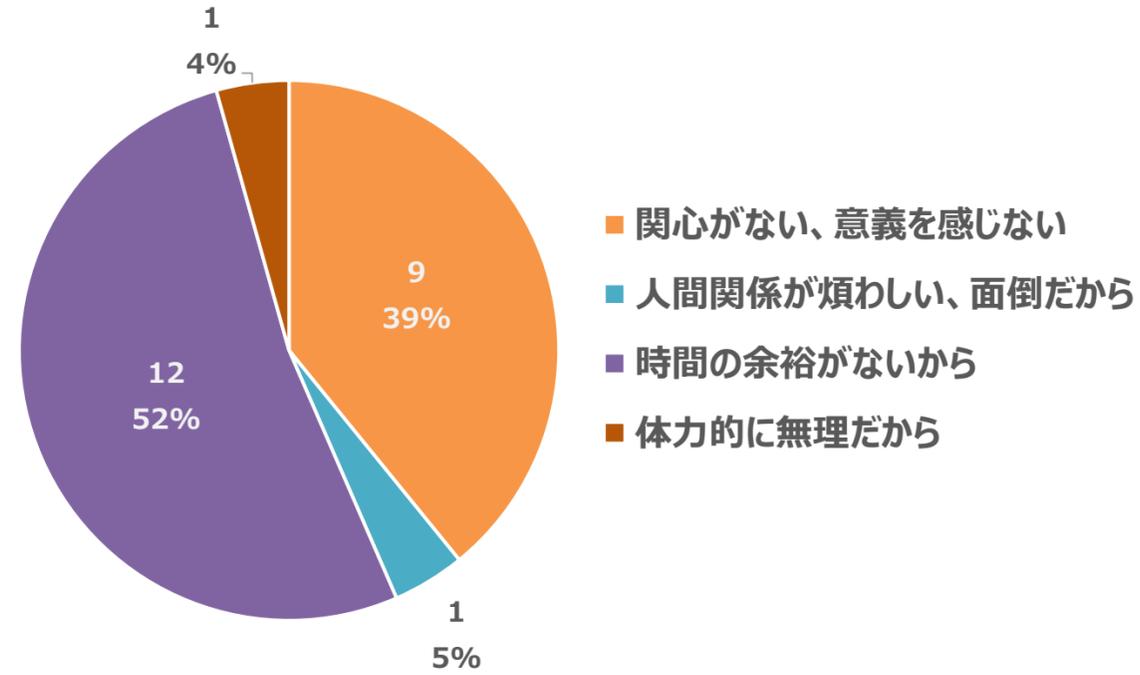
学年・男女別



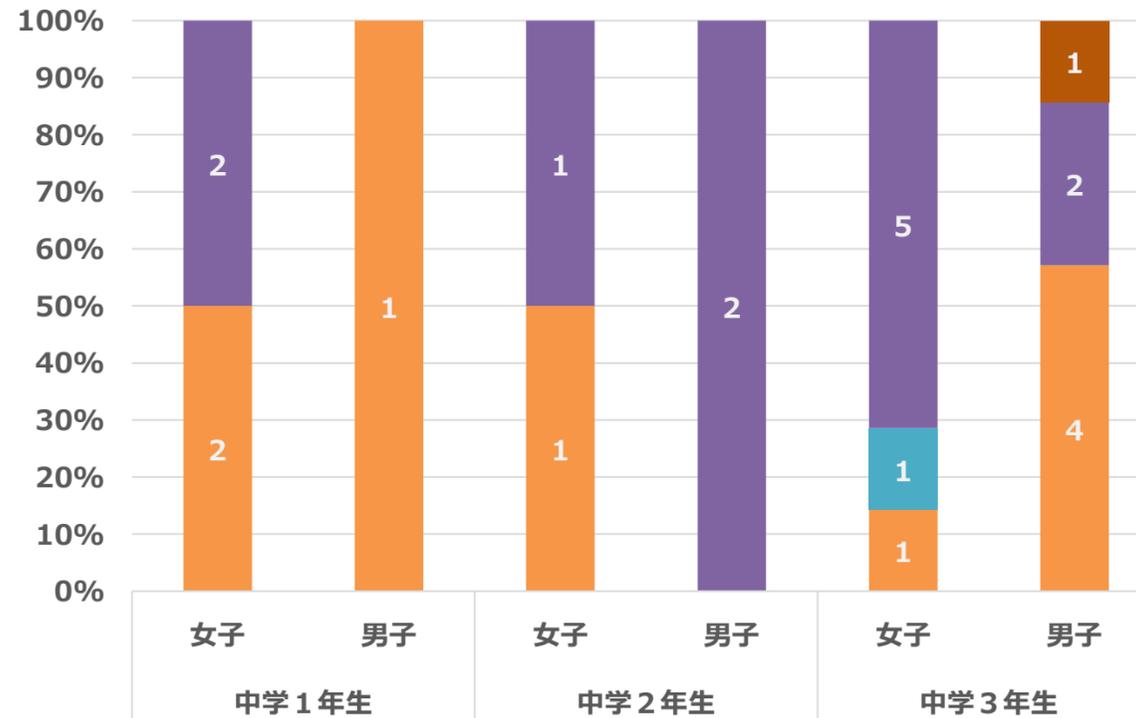


「ほとんど参加していない」理由

全体



学年・男女別

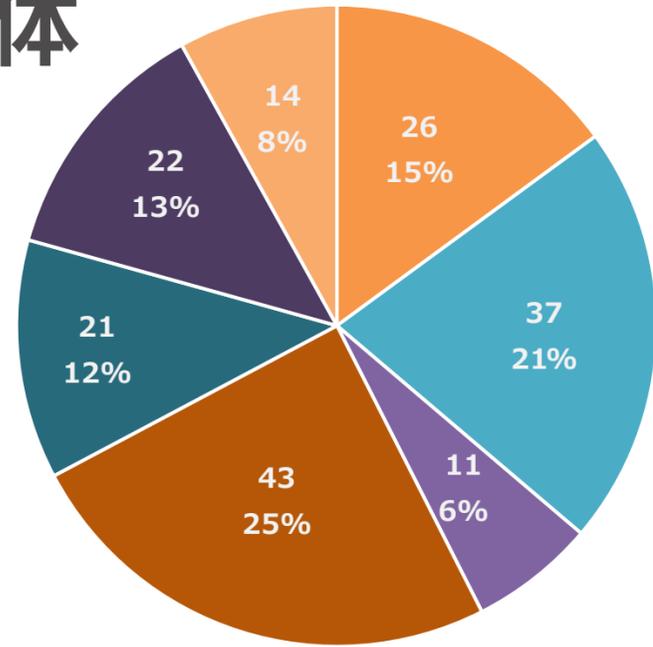


- 体力的に無理だから
- 時間の余裕がないから
- 人間関係が煩わしい、面倒だから
- 関心がない、意義を感じない



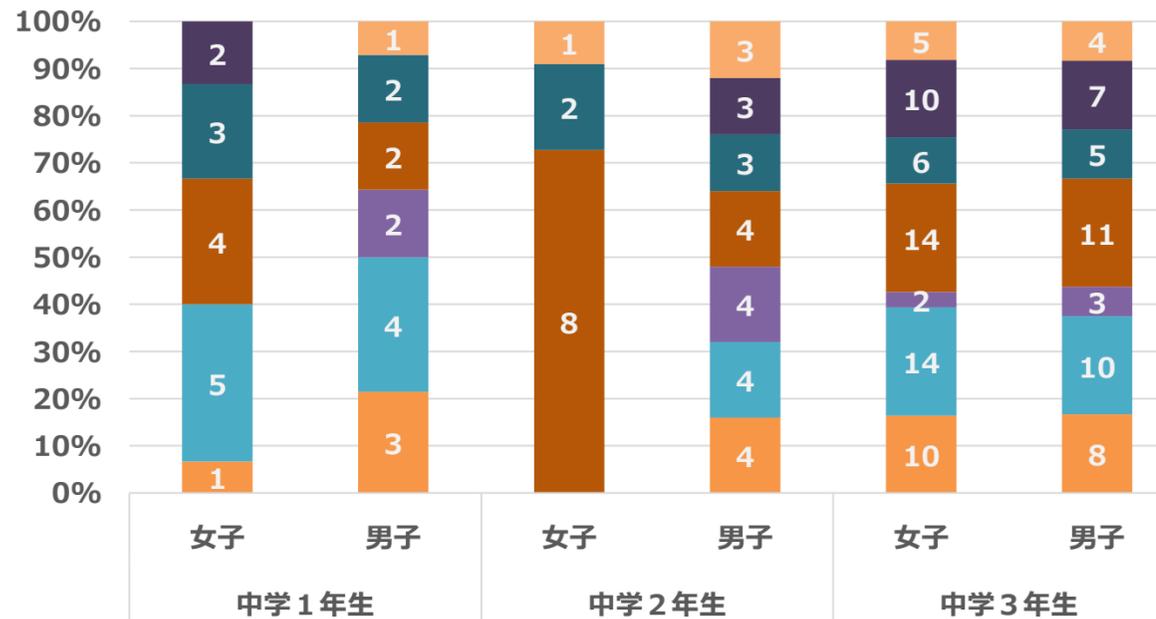
地域の団体に期待すること

全体



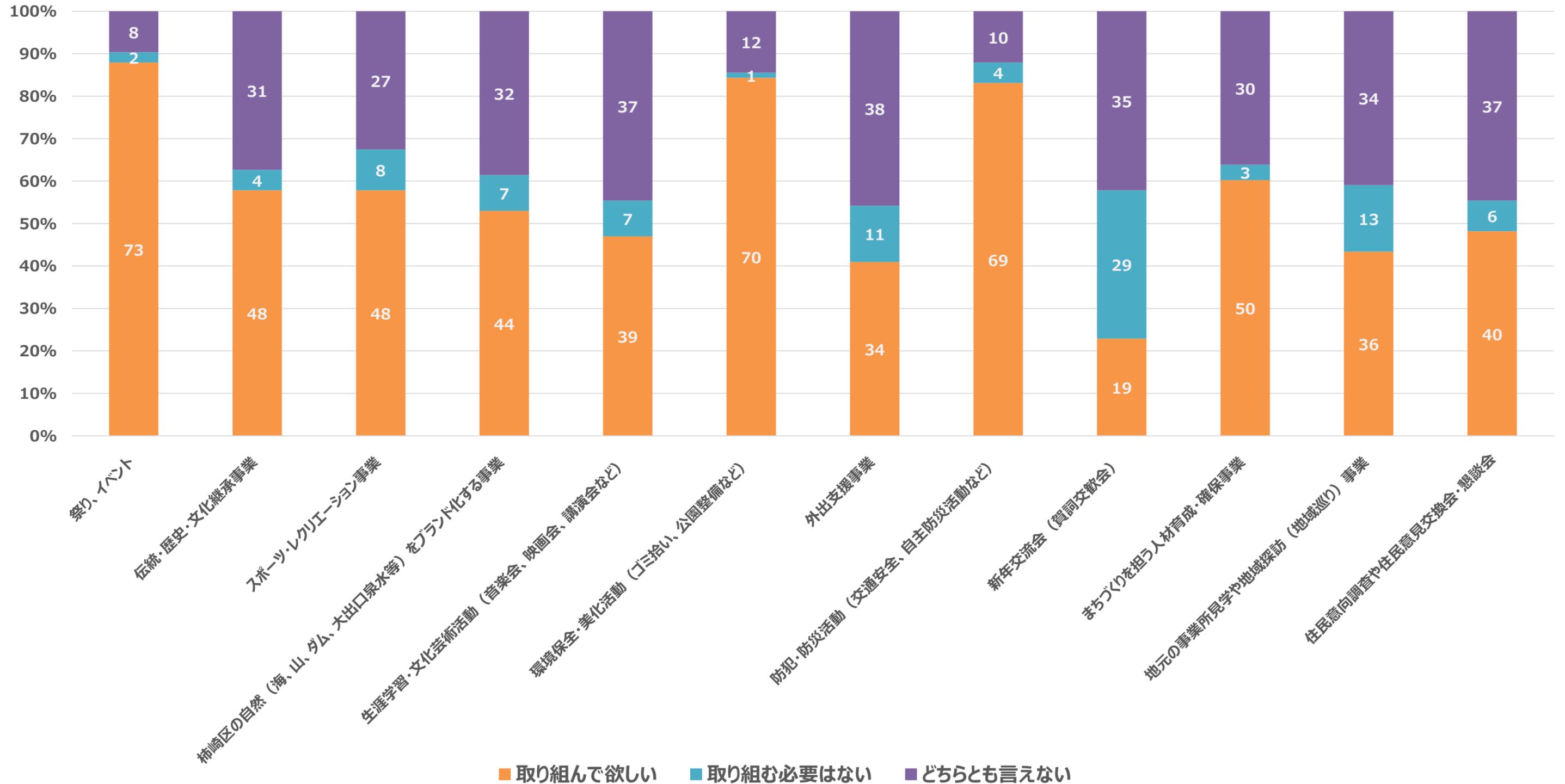
- 地域の課題・意見・声などを聴き、とりまとめ公表すること
- 地域課題の解決に向けた取り組みをすること
- まちづくり活動のリーダーシップを発揮すること
- イベント等を実施し、賑わいづくりをすること
- 地域の一体感や連帯感づくりをすること
- 地域の誇り、愛着づくりをすること
- 広報紙などで地域の情報発信をすること

学年・男女別



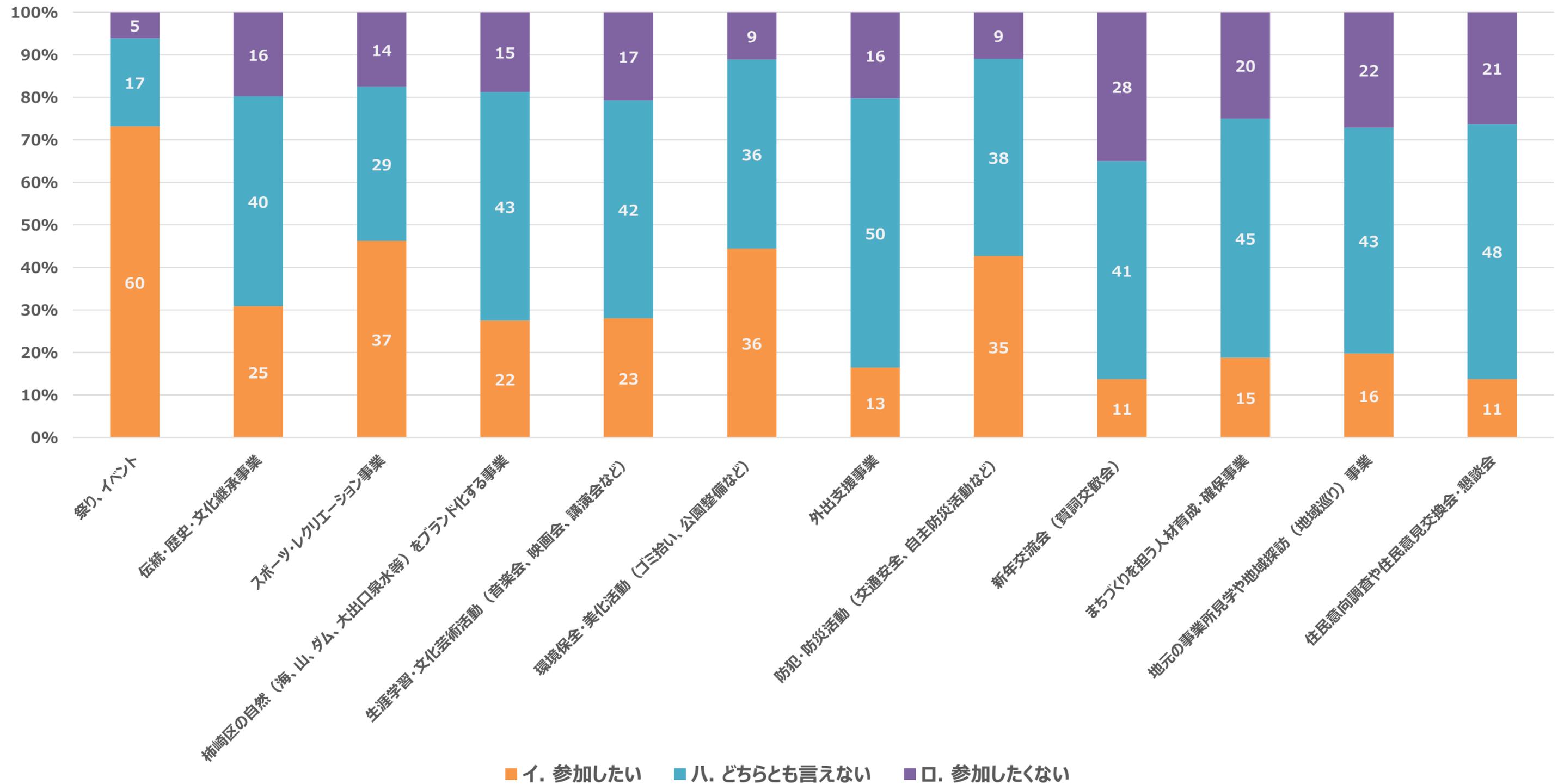
- 広報紙などで地域の情報発信をすること
- 地域の誇り、愛着づくりをすること
- 地域の一体感や連帯感づくりをすること
- イベント等を実施し、賑わいづくりをすること
- まちづくり活動のリーダーシップを発揮すること
- 地域課題の解決に向けた取り組みをすること
- 地域の課題・意見・声などを聴き、とりまとめ公表すること

地域団体の事業 取り組んでほしいか





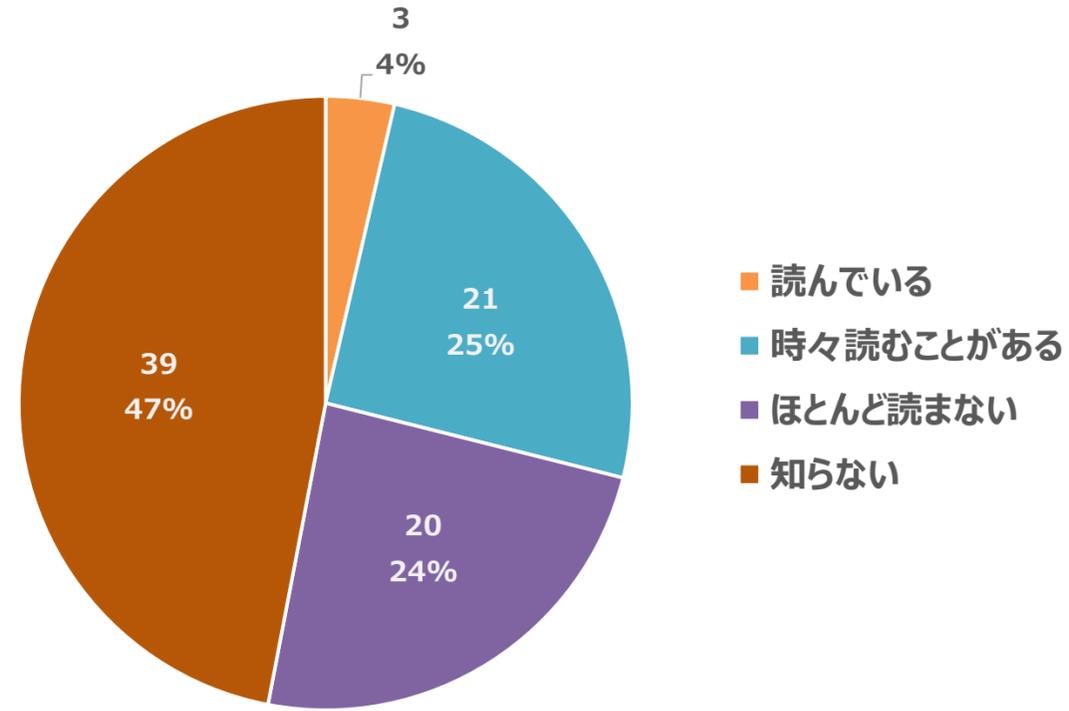
地域団体の事業 参加したいか



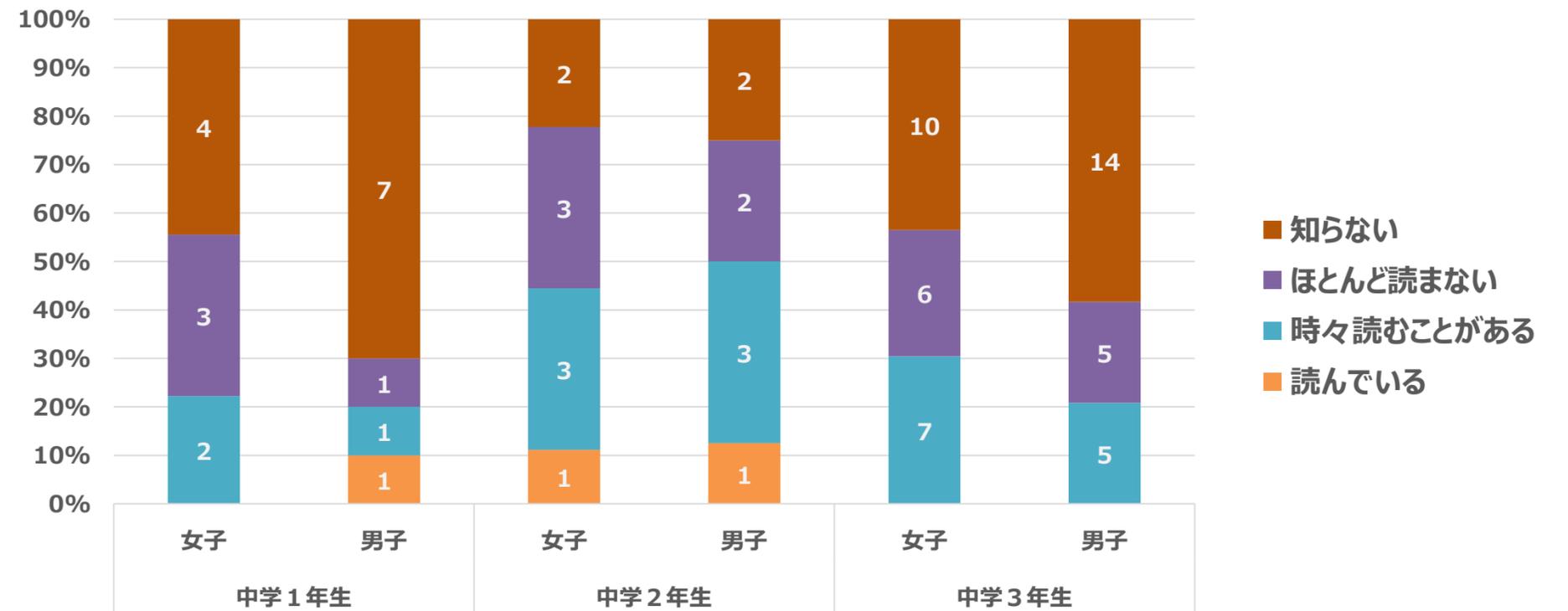


▼ かわらばん 読んでいる？

全体



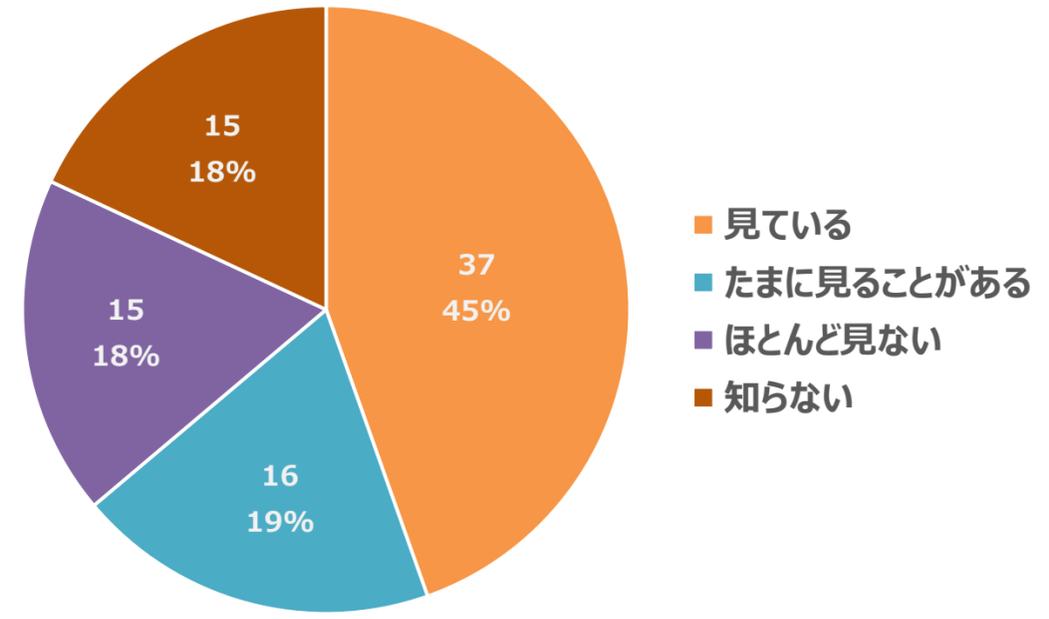
学年・男女別



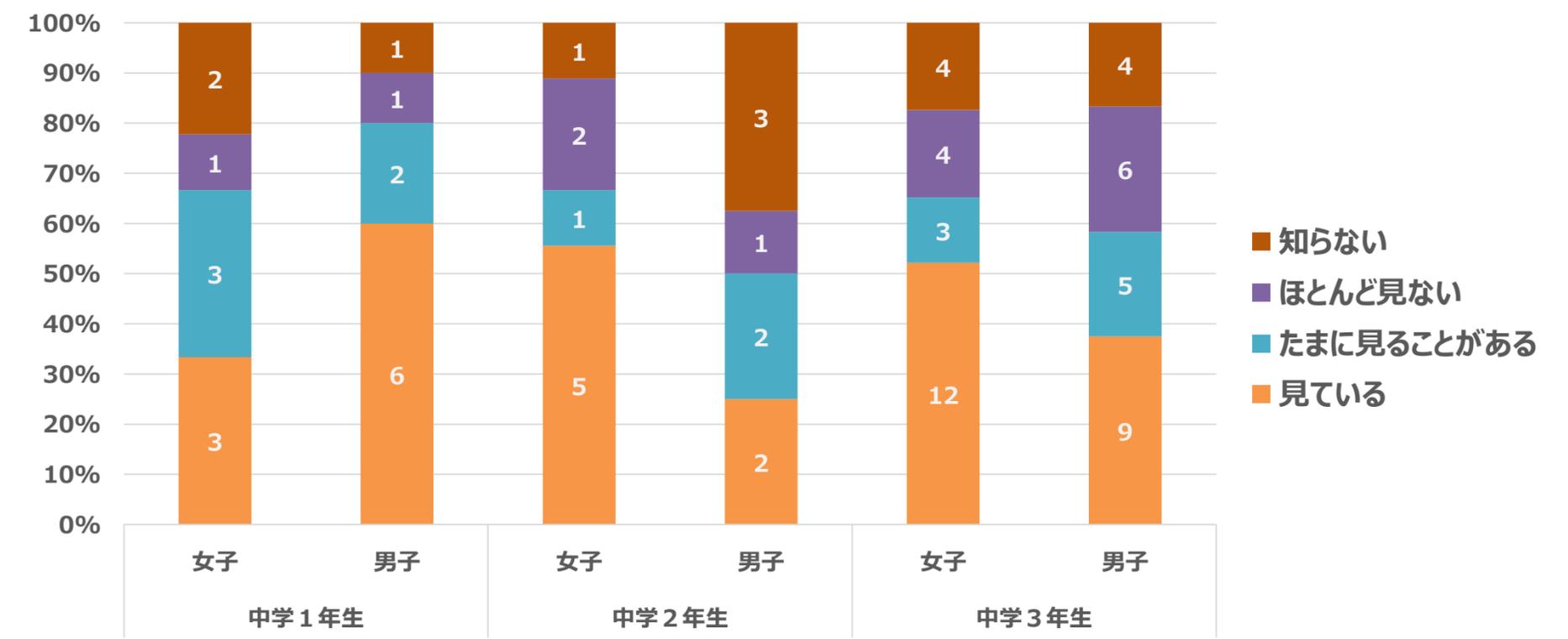


まちづくりカレンダー 見ている？

全体



学年・男女別



▼ 今後のまちづくりや地域の団体についての考えや思いなど

生成AI (ChatGPT 4o) による要約

1. 地域の魅力発信と活性化

- 海や山など自然の魅力を活かした活動を推進。
- 若者向けのイベントやお笑いライブ、芸能人招致などの企画がほしい。
- 地域の歴史的な魅力を発信し、他地域からの訪問者を増やしたい。
- 住民同士の交流を深める企画や特産品PRを強化。

2. 商業・雇用環境の充実

- 商業施設や観光スポットを増やし、訪れる人を増やす。
- 若者が働ける場所の創出。
- 地域企業間の連携を強化し、新しい事業の展開。

3. 子供・若者向けの環境整備

- 子供向けの参加・体験型イベントの充実。
- スポーツクラブの活動を活発化し、交流の場を増やす。
- 学習施設の整備(自由に使える学習スペースが欲しい)。
- 祭りや地域行事に若い世代の意見を取り入れ、楽しめる内容に。

4. インフラ・交通の改善

- 公共交通(バス)の効率的な運用を検討。
- 商業施設・飲食店の充実。
- 公園の遊具の老朽化対策。

5. 福祉・医療・安全面の充実

- 病院や福祉関連施設の充実。
- 地域全体で子供から高齢者まで住みやすい環境づくり。

6. 地域の継続的な発展

- 伝統的な祭りやイベントの継続と発展。
- 地域の文化や歴史を守りながら、新たな取り組みを導入。
- ボランティア活動(海岸清掃、公園整備)を継続し、地域環境を維持。

全体として、柿崎の活性化に向けて「商業施設や働く場所の整備」「若者・子供向けのイベントの充実」「公共交通やインフラの改善」「地域の魅力発信」が求められている。

04

自由意見

▼ 肯定的意見



1. 地域交流の活性化

- ・ 地域の行事やイベントは住民同士のつながりを深める重要な役割を果たしており、今後も継続すべきとの意見が多い。
- ・ 住民が主体となる活動が地域の活力維持に貢献しているため、さらに多くの世代が参加できる企画が求められる。
- ・ 若者の参加を促すために、子供を対象にしたイベントを増やすことが有効と考えられている。

2. 文化・伝統の継承

- ・ 祭りや伝統行事の継続は、地域のアイデンティティを維持するために不可欠であり、多くの住民がその存続を支持している。
- ・ 地域資源(米山、海産物、酒蔵)を活かし、観光資源としての活用を推進する意見がある。
- ・ 伝統行事の実施に際しては、新しい形での展開(観光との連携やデジタル技術の活用など)も視野に入れるべきという意見も見られた。

3. 行政・振興会の取り組み

- ・ まちづくり振興会の活動は地域の活性化に寄与しており、その継続を希望する声が多い。
- ・ 町内会や自治体との協力を強化し、より効果的なまちづくりを推進することが望まれている。
- ・ 一定の会費値上げはやむを得ないとの意見もあるが、事業の透明性確保と住民への説明が重要とされている。

4. 若者・子育て世代向けの支援

- ・ 若者や子育て世代が参加しやすいイベントや仕組み作りが必要との意見が多く、親子で参加できる企画が望まれている。
- ・ 町全体で子育て支援を充実させることで、若年層の定住を促進できるとの意見が出ている。
- ・ 地元企業や学校との連携を強化し、地域活動への若年層の参画を促すことが求められている。

5. 交通・アクセス改善

- ・ 高齢者や移動手段のない住民向けに、送迎バスやデマンドタクシーの運行が求められている。
- ・ 住民が町内のイベントに参加しやすくなるよう、アクセス改善が必要という意見が複数見られた。
- ・ 地域内の移動手段を確保することで、高齢者の社会参加を促し、まちづくりの一環としての機能を強化することが期待されている。

要約

地域交流イベントや伝統行事の継続が求められており、住民同士のつながりを深めるための施策が必要とされている。特に、若者や子育て世代の参加を促すために、親子向けのイベントやスポーツ大会、地域資源を活かした観光施策の強化が望まれている。また、まちづくり振興会の活動には一定の評価があり、今後も継続すべきとの声が多いが、運営の透明性を確保し、住民への説明を強化することが求められている。さらに、高齢者や移動手段を持たない住民のために、送迎バスやデマンド交通の充実が必要とされている。これらの意見を踏まえ、まちづくりを持続可能な形で進めるためには、地域の特性を活かした観光施策、若者や子育て世代の定住促進、高齢者の社会参加支援など、多面的な取り組みが不可欠である。

▼ 否定的意見

1. 財政負担の増加

- ・ イベントや事業の継続には多額の費用がかかり、財政面の負担が大きくなっている。
- ・ 市の補助金が減少する中、不要な事業の見直しと削減が求められている。
- ・ 参加率の低いイベントは会費制にするなど、財政の健全化を進めるべきとの意見がある。

2. 住民参加の難しさ

- ・ 住民の高齢化が進み、特に高齢者は移動手段がなく、行事への参加が難しいとの意見が多い。
- ・ 若者や子育て世代が関心を持ちにくい行事が多く、幅広い世代が参加しやすい企画の検討が必要。
- ・ 町内会の行事の参加者が減少しており、関心を高めるための施策が求められている。

3. 振興会・組織運営の課題

- ・ 振興会の運営が固定化しており、新しいアイデアや取り組みが生まれにくい。
- ・ 住民の声が十分に反映されていないとの指摘があり、外部コンサルタントの導入など、運営改善が必要。
- ・ 情報発信が不足しており、イベントの開催を知らない住民も多いため、SNSやウェブサイトの活用が求められている。

要約

住民の高齢化や若者の流出により、イベントや活動への参加者が減少しており、「行事を継続しても参加者が少なければ意味がない」との意見が多く見られた。特に、スポーツ大会や文化講演会など、高齢者向けの活動が多い一方で、若者や子育て世代が参加しやすい行事が不足しているとの指摘があった。また、「町内会の行事の参加者が年々減少している」「祭りなども特定の人しか参加していない」という声があり、多世代が参加しやすい仕組み作りの必要性が指摘された。財政面では、「市からの補助金が減る中で、無理にイベントを継続するのではなく、削減すべきものを見直すべき」との意見が複数あり、特に「カレンダーの配布は不要」「行事を減らして支出を抑えるべき」という声が強かった。また、参加者が少ない行事は会費制にするなど、財政面の見直しを求める意見も多く、「振興会の財政がひっ迫しているのに、すべてを維持し続けるのは不可能」との指摘もあった。振興会の運営については、「役員の固定化が進んでおり、新しいアイデアが生まれにくい」「外部コンサルタントを入れて立て直しを図るべき」との意見もあり、組織運営のあり方自体を見直すべきという声があった。また、「交通手段がなく、高齢者がイベントに参加しづらい」「会場が遠くて行くのが大変」との意見も多く、高齢者の移動手段の確保が重要な課題として挙げられた。加えて、「情報発信が不足しており、イベントの存在自体を知らない住民がいる」「SNSやウェブサイトを活用して、より多くの人に情報を届けるべき」との意見も見られた。全体として、「住民の関心が薄れつつある現状を踏まえ、現実的に運営できる範囲で活動を見直し、時代に合った形に変えていくべき」という意見が多く出されている。

05

今後の方針案・施策案

▼ 今後のまちづくりの方針案

1. 持続可能な地域活動の推進

- ・財政の健全化を図りながら、実施可能な範囲での活動を継続する。
- ・必要な事業を精査し、優先順位を明確化する。

2. 多世代が参加しやすい環境整備

- ・若者・子供・高齢者が参加しやすいイベントの企画。
- ・交通手段の確保や送迎サービスの導入。

3. 組織運営の改善

- ・振興会の新陳代謝を促進し、新しい視点を取り入れる。
- ・他地域や企業との連携強化

4. 観光資源・地域資源の活用

- ・地域の魅力を発信し、観光や移住促進につなげる。
- ・町おこしイベントの戦略的な統合

今後のまちづくりの具体的施策案

短期施策案（1年以内に実施可能）



1. イベントの見直しと統合

概要: 参加者が少ない行事を整理し、人気のあるイベントに統合。

具体策:

- ・時代祭と花火大会を同日開催し、イベントの相乗効果を狙う。
- ・高齢者向けイベントと子供向けイベントを組み合わせ、親子三世代で楽しめる形式に変更。
- ・地域ごとに分かれていた小規模行事を統合し、町全体で楽しめる大規模イベントへと発展させる。

2. 送迎サービスの試験導入

概要: 高齢者や移動手段のない住民向けの送迎バスを試験運用。

具体策:

- ・ 主要なイベント開催日に無料または低価格の送迎バスを運行。
- ・ 費用は企業スポンサーの協賛や補助金で補填。
- ・ 予約制にすることで、運行の効率化を図る。

3. オンライン広報の強化

概要: 住民への情報発信を強化し、イベント参加率向上を図る。

具体策:

- ・ SNS(Facebook、Instagram、LINEなど)を活用し、リアルタイムで情報発信。
- ・ イベントのライブ配信や、アーカイブ動画の公開を行う。
- ・ 「柿崎まちづくり振興会公式サイト」の開設・リニューアルを行い、行事の情報を一元化する。

今後のまちづくりの具体的施策案

中長期施策（2～3年以内に実施）



1. 地域活動の財政健全化

概要: 財政状況を改善し、持続可能な地域活動を推進する。

具体策:

- ・ 行事の参加費制度の見直し(無料イベントの削減)。
- ・ 企業スポンサーの導入やクラウドファンディングの活用。
- ・ 参加型のイベントを増やし、収益の向上を図る。

2. 地域資源を活用した観光施策

概要: 地域の魅力を発信し、観光と地域活性化を結びつける。

具体策:

- ・ 地域特産品を活用した「柿崎ブランド」の開発(例: 日本酒、海産物、郷土料理)。
- ・ 米山・海岸・温泉・酒蔵などを活用した観光ルートの開発。
- ・ 観光客向けに、地元ガイド付きの「まち歩きツアー」実施。

3. 若者・子育て世代向けの支援強化

概要: 若年層の定住を促し、人口減少対策を図る。

具体策:

- ・ 子育て世代が参加しやすいイベントの企画(親子体験教室、地域スポーツ大会)。
- ・ 保育施設や学童施設の充実を支援し、子育て世帯の移住促進。
- ・ 高校生や若手社会人向けの「地域おこしプロジェクト」を発足し、地域でのキャリア形成を支援。

4. 地域組織の統廃合と新体制の構築

概要: 振興会・観光協会・商工会などの組織改革を行い、効率化を進める。

具体策:

- ・ 各団体を統合し、まちづくりの一本化を図る。
- ・ 役員の固定化を防ぐため、定期的な人事刷新を行う。
- ・ 外部コンサルタントを導入し、組織の再編と新たな方向性の検討を行う。

▼ まとめ

今回のアンケート結果から、住民の意見を整理・分類し、短期・中長期的な施策案としては、以下の点が重要となる。

1. イベントの最適化: 住民のニーズに合わせて、イベントを統合・新規企画。
2. 財政の適正化: 収益向上のため、会費制度の見直しやスポンサー導入。
3. 交通手段の整備: 高齢者や子育て世代が参加しやすい環境の構築。
4. 若者・子育て世代の参画: 親子イベントや観光プロジェクトの強化。
5. 組織改革: 振興会・観光協会などの統合を進め、まちづくりの効率化。

以上の施策の実施を検討し、持続可能なまちづくりを進め、住民全員が参加しやすい環境を整える必要がある。

▼ 付録「多世代が参加しやすい」具体的施策案

① スポーツ・レクリエーションイベント

- ・「ファミリー・スポーツデー」: 玉入れ、パン食い競争、輪投げなど、子供から高齢者まで楽しめる競技を実施。
- ・「健康ウォーク」: 町の歴史や名所を巡りながらのウォーキングイベントを開催。

② 文化・伝統イベント

- ・「世代交流ワークショップ」: 高齢者が先生になり、郷土料理や伝統工芸を若者に教える企画。
- ・「地域音楽祭」: 子供から大人まで参加できる音楽イベントを開催し、世代を超えた交流を促進。

③ 観光イベント

- ・「ふるさとフェスティバル」: 地元の特産品を活かしたグルメフェスや観光ツアーを実施。
- ・「町おこしフォーラム」: 若者を中心に、地域活性化のアイデアを出し合うコンテストを開催。

④ 子育て支援イベント

- ・「親子で楽しむ体験型イベント」: 木工クラフト、科学実験教室、農業体験などを実施。
- ・「eスポーツ大会・ボードゲームカフェ」: 若者向けの交流イベントを開催し、地域活動への関心を高める。

⑤ 交通・アクセス支援施策

- ・「高齢者・子育て世代向け無料送迎バス」: 主要なイベントや施設への送迎を実施し、参加しやすい環境を整備。

付録 オンデマンドバス運用を踏まえた短期施策

現在、全域ではないものの オンデマンドバスが運用されている ことを踏まえ、既存の交通資源を最大限活用しながら、高齢者や子育て世代がより利用しやすい施策 を提案します。

1. オンデマンドバスの周知強化と利用促進キャンペーン

概要: 現在のオンデマンドバスの認知度を高め、利用率を向上させる。

具体策:

- ・利用者向けガイドブックの作成・配布
 - ・乗り方・予約方法を分かりやすく説明したパンフレットを配布(回覧板・町内会・公共施設に設置)。
 - ・「スマホ・電話で簡単予約」の利便性をアピール。
- ・住民向け説明会の開催
 - ・町内会や高齢者サロン、小学校PTA会合などで説明会を実施。
 - ・高齢者・障がい者向けの利用サポート体制を構築(地域の見守り活動と連携)。
- ・無料お試し乗車キャンペーン
 - ・一定期間、初回無料や「お試し割引券」を発行し、新規利用者の増加を図る。

2. オンデマンドバスのイベント連携利用

概要: 町内のイベントや行事と連携し、参加者の移動をスムーズにする。

具体策:

- ・イベント専用のシャトル便を期間限定運行
 - ・例: 町内のお祭り・講演会・健康教室・運動イベント時に、会場までの直行便を設定。
- ・イベント参加者限定「バス利用割引」制度の導入
 - ・イベントに参加することで、次回のバス料金が割引される仕組みを作る(参加者向けにQRコード付きクーポン発行)。
- ・「親子でお出かけバスデー」の実施
 - ・子育て世代向けに、休日のバス利用を促進するキャンペーンを展開(遊び場や体験施設との連携)。

3. オンデマンドバスのルート最適化と利用データ分析

概要: 住民の実際の移動ニーズを把握し、効率的な運行ルートを検討。

具体策:

- ・現在の利用データを分析し、運行ルートや時間帯を最適化
 - ・高齢者の利用が多い時間帯・エリアを可視化し、乗降ポイントを適宜調整。
- ・利用者アンケートの実施
 - ・どこに行きたいか、どの時間帯が便利かを調査し、データに基づいた改善を行う。
- ・定期ルートとフレキシブルルートの組み合わせ導入
 - ・主要ルートは固定しつつ、一部予約制の運行を併用し、利便性を高める。

4. 「バス＋地域活性化」の連携プロジェクト

概要: バスの利用を促進しながら、地域経済や観光活性化につなげる。

具体策:

- ・「バスで行く地域巡りツアー」の実施
 - ・地元の名所巡り、酒蔵見学、地元グルメ体験などを組み合わせたバスツアーを定期開催。
 - ・高齢者だけでなく、若者や観光客にも魅力的な内容にする。
- ・「バス利用ポイント制度」の導入
 - ・一定回数利用すると、地元商店街の割引券やイベント参加券がもらえる仕組みを検討。
- ・「観光・移住者向けオンデマンドバスツアー」の企画
 - ・町外の人向けに、バスを活用した柿崎の魅力体験プログラムを実施。

オンデマンドバスまとめ

- ・「オンデマンドバスをより多くの住民が利用できる仕組みづくり」
- ・「イベントとの連携による活用促進」
- ・「データ分析によるルートの最適化」
- ・「バスを地域活性化のツールとして活用」

これらの施策を実施することで、既存の交通資源を最大限活用しながら、住民の移動手段を強化し、地域活性化にもつなげることが可能 です。